

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/2		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1) (5 館共通) ア、(東京国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 金井裕子 ボランティア室長 川岸瀬里
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、6 月以降の講演会は通常通りの運営に移行した。展示に即した内容のほかにも、博物館アーカイブや資料館の活用など、所蔵作品以外のテーマも加え、文化財について多面的に理解を深められるような学習機会を提供した。 月例講演会は、すべての月において平成館大講堂での対面形式で開催し、聴覚が不自由な人向けの音声字幕サービス (UD トーク) と、補聴器利用者のためのヒアリングループのサービスも実施した。「国際博物館の日」では、来館経験の少ない人向けの講演会を 1 日 2 回開催した。「留学生の日」には、外国語話者のためのハングルと英語のギャラリートークを実施した。 いずれも、対面形式の講座には、コロナ禍以前に比べて来館者も多く、講演会はいずれも定員を大きく上回る応募者があり、想定以上に対面での講演会を博物館に期待していることが判明した。また来館が難しい人に向けた YouTube を利用してのオンラインギャラリートークも継続的に作成し、特集や屋外展示など幅広く紹介した。 イ (ア) ファミリー向け教育普及的展示企画として、親と子のギャラリーを 2 回開催した。恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館の 3 館連携企画「親と子のギャラリー 尾・しっぽ」では、子どもも含めたすべての来館者にわかりやすい展示と解説を心掛け、オンラインによる解説「上野の山で動物めぐり」を実施した。 「親と子のギャラリー 中尊寺のかざり」では、障がい者支援団体等の協力を仰ぎ、螺鈿の技法のわかる触察ツールの制作、ハンズオンの設置、解説動画に手話と英語を導入して制作、博物館教育課主導の障がい者のための鑑賞日を実施した。 また、キッズデーを 3 回 (7 月 23 日、9 月 23 日、6 年 2 月 23 日) 開催し、キッズスペースや託児所の開設など、親子連れの来館者が安心できる環境を整え、低年齢層にも親しみやすいプログラムを用意することで、親子連れの来館者のリピーターを増やす一助になった。 (イ)「博物館でアジアの旅」期間中に、東洋館ミュージアムシアターを利用したスライドトークを 2 回実施した。「博物館でお花見を」で「東博句会 花見で一句」「お花見ヨガ in 法隆寺宝物館」、「博物館でアジアの旅」で「アジたびマップ 2023」の編集製作、ぬりえワークショップ、ボランティアのガイドツアー等を実施した。 ウ スクールプログラムは対面実施を基本とし、来館できない新たな層に対しては、オンラインでも継続した。盲学校対象のスクールプログラムは、児童生徒に加え、PTA 連合会やリハビリテーションセンターなどと連携して実施した。教員研修も対面での実施を再開し、8 月 4 日「初期伊万里の粹-染付から初期色絵まで」や令和 6 年 2 月 5 日に特別展「中尊寺金色堂」と親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」などの教員研修を実施した。 本館 19 室みどりのライオン体験スペースや特別 4 室「日本文化のひろば」、東洋館オアシス「アジアの古い体験」は体験型アクティビティを通じ、インバウンドを中心として多くの来館者が参加し、文化財や伝統文化、博物館を楽しむ場となった。また、文化財や伝統文化への興味喚起、理解促進に寄与した。			
 留学生の日のギャラリートーク  オンライン解説「上野の山で動物めぐり」  教員研修会の様子			
【補足事項】 (東京国立博物館) ア 講演会 24 回 参加者数 6,257 人 (応募申込者数 10,828 人) (月例講演会 12 回、3,369 人 記念講演会 8 回、2,318 人、その他講演会 4 回、570 人) ギャラリートーク 32 回、48,348 人 (対面 21 回、727 人/オンライン配信 11 回、47,621 人) イ 親と子のギャラリー「尾としっぽ」アンケート「面白かった」87.6% (無回答を除く回答数 290 のうち) 親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」アンケート「面白かった」88.9% (回答数 345 のうち)			

ウ スクールプログラム 小中高 202 校 11,890 人(小学校 37 校 2,455 人、中学校 97 校 5,875 人、高校 68 校 3,560 人(うち盲学校のためのスクールプログラムの中学部 4 校 14 人を含む)、職場体験 10 校 34 人(中学校 7 校 24 人、高校 3 校 10 人) 教員研修 3 回 99 人								
【評価指標】項目	5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
講演会等の満足度アンケート	87.1%	88%	B		84.5	-	84.9	85.3
講演会等の開催回数(関連指標)	59回	-	-		97	19	39	32
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 対面によるプログラムを本格的に再開したことで、どの教育普及事業でも来館者のニーズは高く、特に講演会は、4年度より101%増の10,828人から応募があった。それに加え、引き続き来館できない層に対しても発信できるよう、オンラインプログラムも一部継続するハイブリッド方式で行った。学校対応の受入枠数を増加するとともに、PTAや教員、留学生など、さまざまな層にアプローチを行い、より多くの層からの理解を得て実施することができた。 各団体と連携をとり、事業を実施するとともに、博物館教育課主導で障がい者のための鑑賞日を初開催し、さまざまな障がい者への鑑賞機会を広げる等、従前よりも取り組みの幅を大きくすることができた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画 3 年目として、さまざまな形式で講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ等を順調に開催した。また、他の文化施設や社会教育団体、障がい支援団体、学校等と連携協力を行った。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/2		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1 (東京国立博物館) エオ			
担当部課	学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 金井裕子 ボランティア室長 川岸瀬里 課長 竹之内勝典
【実績・成果】 エ さまざまな障がいを持つ来館者や外国人来館者のために、以下の取り組みを行った。 親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」では、手話や字幕、音声が付加した動画を、障がい者当事者の助言も得ながら新規制作することで、聴覚障がい者や親子連れ、視覚障がい者も一緒に見られる動画にした。さらに、英語版や、中国語・韓国語の翻訳も作成し、外国人来館者に対応した。また、展示室には、作品理解のために新たに触察ツールを制作し、ボランティアを配置することで、一般来館者も障がい者も、抵抗なく触察ツールに親しむことができた。 また、博物館教育課主導で「中尊寺のかざり」と特別展「中尊寺金色堂」の障がい者向け内覧会を1月29日に開催、クワイエットアワーやカームダウンスペース、休憩室の設置、手話通訳士や看護師の配備など、さまざまな障がいをもつ来館者に対応し、ボランティアがその運営をサポートした。また参加者を対象にアンケート調査を実施した。 さらに、キッズデー（7月23日、9月23日、2月23日）では、新たに感覚過敏の来館者に向けた「センサリーマップ」に関連したイベントを新たに実施し、感覚過敏の理解を深めるとともに、対象の来館者に情報発信することで、来館へのきっかけとなるよう努めた。 視覚障がい者に対しては、引き続き、盲学校ためのスクールプログラム、触察ツール（本館特別4室）や点字冊子の制作と配布、触知図での案内（本館19室）を行った。「盲学校のためのスクールプログラム」では、学校の生徒に加え、今年度はPTA関東連合会やリハビリテーションセンターに通う成人にも対象を拡大することができた。 聴覚障がい者のためには、引き続き、音声字幕サービス（UDトーク）を月例講演会で運用するとともに、聴講者に対し、その認知度を高めるべく取り組んだ。その際、誤用の起きやすい専門用語などを事前に入力し、極力文字認識のしやすい、わかりやすい言葉遣いを講師に依頼するなど、調整を行った。また平成館大講堂におけるすべての講演会で、補聴器利用者の聞き取りやすさ向上のためのヒアリンググループを導入した。さらに、それらの利用の際に問題となっていたWi-fi環境の安定化のため、新たに大講堂のWi-fi環境を館内のフリーWi-Fiとは別途に設置し、パスワードを毎回変更するなど、セキュリティにも配慮しながら利便を図った。 また、障がい者に向けた活動推進のため、ボランティアに研修をし、共通理解をもったうえで、ボランティアが活動のサポートを行った。 外国人来館者の急増により、トーハクナビのダウンロード数も増加した。急増した外国人観光客に対応し、本館特別4室「日本文化のひろば」を中心に、案内資料に外国語対応を継続した。また東博の展示内容を紹介動画「Discovering the Tokyo National Museum」を公開した。さらに、親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」では、これからの外国人来館者の増加と日本文化への理解増進のため、2月6・7・8日に通訳案内士に向けて研修を行い、間接的に外国人来館者に日本文化を理解していただく取り組みを行った。 1月29日（月）特別展「中尊寺金色堂」および親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」において障がい者のための内覧会、また2月19日（月）に特別展「本阿弥光悦の犬宇宙」および特別展「中尊寺金色堂」において、三菱商事株式会社との共催による「障がい者のための特別鑑賞会」を実施した。			
オ 年度を通じて以下の取り組みを行った。 ・ JR東日本と協同して、黒田記念館の観覧や当館敷地内の庭園散策を含むまちあるきツアーを開催した。 ・ 上野恩賜公園開園150周年総合文化祭に協力し、上野公園内にブースを出展して、伝統模様をテーマとしたワークショップ「日本の模様でデザインしよう」（日・英での対応）を10月20日（金）、21日（土）、22日（日）に実施した。 ・ 台東区主催によるイベント（第18回 台東区の伝統工芸職人展）の館内での実施に協力した。 ・ 文化財管理棟におけるツアーの実証実験として小規模団体の見学受入を行い、適正な規模等の検証を行った。 ・ NOHGA HOTEL UENO TOKYOと連携し、総合文化展の鑑賞、庭園散策、茶室での体験を含むツアーを実施した（11月15日（水）、18日（土））。 ・ 「キッズデー」（7月30日（日））及び「プチキッズデー」（6年2月23日（金・祝））に、子どもたちを対象に参加しやすい内容の寄席「大笑い！落語の世界 ～寄席文化を知って楽しもう～」を開催した。			
  			
センサリーツアーの様子 「中尊寺のかざり」触察ツール 「中尊寺のかざり」手話付き動画			
【補足事項】 エ センサリーマップ関連イベント：「感覚ゲームで遊んでみよう」（7月30日92人、9月23日207人）、「センサリーツアー」（7月30日28人、9月23日45人）、「センサリーマップを作ってみよう」（2月23日、7組16人） トーハクナビ・Android版「トーハクナビ」6,341件（累計14,528件、令和2年3月31日公開） iOS版「トーハクナビ」17,677件（累計64,494件、令和2年3月31日公開）			

「障がい者のための特別鑑賞会」の参加者数は43人 オ 上野公園開園150周年総合文化祭で実施した「日本伝統模様のデザイン」をテーマとしたワークショップには、合計390人が参加した。	
【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 今まで教育普及事業の中で行ってきたUDトーク、ヒアリンググループ、盲学校のためのスクールプログラム、触察ツールなど、これまで積み上げてきた取り組みを更に発展させ、親と子のギャラリー「中尊寺のかざり」の展示内容に、誰でもが楽しめるユニバーサルデザインを取り入れ、触察ツールや手話と字幕のついた動画の作成、障がい者向け内覧会の実施、外国人来館者の増加と日本文化への理解向上を念頭においた、通訳案内士向け研修を行うなど、展覧会を通して、多様な来館者に向けて事業を実施することができた。 さらに、新たに「センサリーマップ」に関連する催しを通して、来館者に対しても発達障害や感覚過敏に関する障がい理解を広め、幅広い来館者のための取り組みに繋げることができた。 また、トーハク新時代プランに基づくツアーの実証実験を行い、6年度以降のツアー実施について検証することができた。
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年目として、外国人来館者を含む、多様な来館者への鑑賞支援や来館支援に取り組み、多岐にわたる事業を実施できた。 以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、B評価とした。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供								
【年度計画】 ・I-1-(3)-①-1) (5館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 大原嘉豊						
【実績・成果】 (5館共通) ア 京都国立博物館においては、38回の講演会等を開催し、満足度は84%であった。 (京都国立博物館) ア・「記念講演会」(12回・1,537人)、「土曜講座」(22回・1,810人)、「夏期講座(転換の時代—15世紀)」(1回・77人)を実施した。 イ・特別展関連鑑賞ガイド「特別展 東福寺 はじめてガイド」(日37,000部・英6,700部・中4,590部・韓1,450部)を発行し、ウェブサイトにも掲載した。 ・「博物館Dictionary」(6回・27,200部)を発行し、ウェブサイトにも掲載した。 ・新春特集展示「辰づくし—干支を愛でる—」を、入門的な内容とし、平易な題箋の作成、ワークシート「さがしてみよう！こんなりゅう」(日英11,000部・中韓3,000部)の発行を行った。 ・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド(日英中韓 各26本)を作成した。 ・京博ナビゲーター(ボランティア)が担当し、文化財のレプリカや材料の見本などのハンズオン教材を通して大人から子どもまで、楽しく文化財に親しむことができる「ミュージアム・カート」を6年1月10日より再開した。 ウ・「文化財に親しむ授業」(7回・542人)、複製を活用した授業への助言・補助(3回・191人)を行った。 ・「社会科教員のための向上講座」(1回・77人)を実施した。 ・スクールプログラム、来館学校団体等への対応(3回・123人)を行った。 ・中学生の職場体験を受け入れた(1回・2人)。									
【補足事項】 イ ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、京博ナビゲーター(ボランティア)によるワークショップ、ミュージアム・カートは2年度より中止していたが、5年度、京博ナビゲーターの募集説明会・選考・基礎講座を実施し、1月より活動を再開することができた。 ・「特別展 東福寺 はじめてガイド」は共催社の協力を得て館外でも配布した。 ・博物館Dictionaryは、これまでモノクロ印刷だったが、より正確に情報を伝え、来館者の興味をひきやすくするため、232号よりカラー印刷に変更した。これにより、来館者が持ち帰る割合が従来の1.4倍になった。									
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
講演会等の満足度アンケート		84%	82%	B		83.4	83.4	86	84.7
講演会等の開催回数(関連指標)		38回	－	－		28	23	31	34
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2年度より中止していた京博ナビゲーターによるワークショップとミュージアム・カートの活動を再開することができた。再開にあたっては、これまでの経験を踏まえ、運営や内容の面で改善を行った。 4年度に受け入れを開始した職場体験を5年度も実施することができた。そのほか例年継続して行ってきた活動の実施とともに、博物館Dictionaryの印刷物のカラー化、特別展の鑑賞ガイドの館外での配布等、質の改善や享受者層の拡大に努めた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 これまで行ってきた、講演会や訪問授業、印刷物の発行などに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた京博ナビゲーター(ボランティア)の活動を再開することができた。さらに、各種運営マニュアルを整備する等、6年度以降の安定した活動のための地盤づくりも行うことができた。							



特別展 東福寺
はじめてガイド
(日本語版)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供							
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-1) (5館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ								
担当部課	学芸部		事業責任者		教育室長 中川あや			
【実績・成果】 (5館共通) ア 講座は計24回開催し、アンケートの結果、サンデートークの平均満足度は94.6%、公開講座の平均満足度は94.7%、夏季講座の満足度は97.8%であった。 (奈良国立博物館) ア 講座・ワークショップ ・サンデートーク（毎月第3日曜日開催）は12回実施し、計1,255人の参加があった。 ・公開講座は特別展（2回）及び特別陳列（2回）の会期中に8回実施し、計1,095人の参加があった。 ・夏季講座は1回（2日間にわたり5講座）実施し、154人（延べ307人）の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開を令和6年1月11日に実施し、120名の参加があった。 ・特別展「聖地南山城」会期中、親子向けワークショップ「飛び出すほとけさま！サプライズボックスをつくろう～あけてひろがる！薬師の世界～」を1日2回実施し、38人の参加があった。 イ 小中学校との連携 5年度の学校プログラムの受け入れ件数は46件で、参加者数は2,746人だった。そのうち奈良市立小学校5年生の受け入れ件数は30件で参加者数は1,840人、奈良市立小学校5年生以外の小・中・高等学校等の受け入れ件数は16件で、参加者数は906人だった。また、大分県と連携し、大分県内の中学校を対象として遠隔操作ロボットを活用したオンライン中継授業を3回実施し、参加者数は56人だった。さらに奈良県内の中学校からの職場体験の受け入れを2回実施し、参加した生徒数は11人だった。 ウ 奈良教育大との連携 奈良教育大学大学院と連携し、特別展「聖地南山城」親子向けワークショップ「飛び出すほとけさま！サプライズボックスをつくろう～あけてひろがる！薬師の世界～」の企画と実施を共同でおこなった。 エ 体験型プログラムの充実 地下回廊にオープンさせた教育普及スペース「ちえひろば」にて、開館日に恒常的に体験できるプログラム（まいにちワークショップ）3種（「仏像&ならはくミニクイズ!」、「さわって！発見！仏像の木」、「ならはく5・7・5をつくろう!」）と、毎月2回（第2・4日曜日）体験できるプログラム（とくべつワークショップ）2種（「ほとけさまに服を着せよう!」、「絵巻物をみて！きいて！さわろう!」）を新規で設置した。まいにちワークショップの実施日数は267日で参加者数は16,281人、とくべつワークショップの実施回数は計75回、参加者数は6,475人だった。								
【補足事項】								
								
サンデートークの様子				奈良教育大学と連携して実施したワークショップ				
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
講演会等の満足度アンケート	94.8%	89%	B		91.7	90.4	92	88.2
講演会等の開催回数（関連指数）	21回	-	-		25	12	27	26
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 講演会は計画通り21回実施し、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行した5月以降は定員90人から180人に増やした。夏季講座は新型コロナウイルス感染症拡大後、4年ぶりの実施となった。アンケートに見る満足度は目標値を大幅に上回り、近年稀に見る高水準であった。小中学校との連携において、学校プログラムの受け入れ数は例年と同様であったが、5年度、学芸業務に関わらせる職場体験の受け入れを初めて実施した。そこでの学校プログラムやワークショップの運営体験は、将来の学芸員養成に繋がるものと評価できる。奈良教育大学と連携しての親子向けワークショップの実施も、新型コロナウイルス感染症拡大後、4年ぶりの実施となった。また、体験型プログラムの充実として、教育普及スペース「ちえひろば」のオープンは当初初めてとなる教育普及事業の恒常的スペースであり、かつ、新規体験プログラム5種の設置も意義が大きい。本事業において例年を上回る評価や、新規の取り組みが多くあるためAと評価する。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したため、講演会や大学との連携事業については従前の規模に戻すことができた。また、小中学校との連携は継続的に活発な内容を維持している。体験型プログラムを恒常的に実施するスペースを設置し、各種プログラムを日常的に実施するようになったことは、奈良国立博物館の未来館者層への発信に大きく資するものであり、中期計画を大幅に進めることができたと考えため、Aと評価する。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-1) (5館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ、ク、ケ			
担当部課	交流課 学芸部企画課 展示課	事業責任者	課長 高棕剛太 課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢
【実績・成果】			
(5館共通)			
ア 5年度は44回の講演会等を開催し、アンケート結果は96.3%であった。			
(九州国立博物館)			
ア 特別展「アール・ヌーヴォーのガラスーガレとドームの自然賛歌」では、記念講演会「北澤美術館のガラスコレクション」(5月13日 講師：池田まゆみ氏(北澤美術館主席学芸員)、参加者166人)を開催し、ガラス工芸の歴史と展示作品への理解を深めた。			
特別展「古代メキシコーマヤ、アステカ、テオティワカン」では記念講演会「マヤ文明—古代の遺骨が語り出す、バイオアーキオロジーとレイナ・ロハ—」(11月4日)の開催を予定していたが、講師の体調不良により急遽、中止となった。			
特別展「生誕270年 長沢芦雪 若冲、応挙につづく天才画家」では、記念講演会「芦雪・若冲・応挙と大雅 驚愕魅惑のベストテン」(6年2月11日 講師：河野元昭氏(東京大学名誉教授)、参加者244人)を開催し、長沢芦雪の画業への理解を深めた。			
イ			
・特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」では、トークセッション「三右衛門が熱く語る『憧れの東洋陶磁』」(7月29日 講師：十四代今泉今右衛門氏、十五代酒井田柿右衛門氏、福島善三氏、酒井田千明(当館主任研究員)、参加者232人)を開催し、現代の作家に影響を与えた東洋陶磁の魅力について理解を深めた。			
・当館のコンセプトである「地域との連携と相互協力」に基づく大宰府学研究成果を、外部講師と共に「大宰府の坂道を考える。」と題したシンポジウムで公開した。(6年2月3日、参加者：140人)			
ウ			
・特別展「アール・ヌーヴォーのガラスーガレとドームの自然賛歌」では、リレー講座(5月20日 講師：望月規史(当館主任研究員)、室井真人氏(筑前高等学校指導教諭)、伊藤信二(当館企画課長)、参加者68人)を開催し、ガラス工芸の歴史と展示作品への理解を深めた。特別展「古代メキシコーマヤ、アステカ、テオティワカン」では、リレー講座「もっと楽しもう!特別展『古代メキシコ ーマヤ、アステカ、テオティワカン』」(10月28日 講師：河野一隆氏(東京国立博物館学芸研究部長)、小澤佳憲(当館主任研究員)、参加者146人)を開催し、メキシコの歴史と展示作品への理解を深めた。			
・作品への理解や、より楽しめる鑑賞を促すために、文化交流展示室で研究員によるミュージアムトーク(実施回数28回、参加者：798人)を行った。ウェブサイトや SNSでトーク内容の紹介を行ったことや新型コロナウイルスによる人数制限が解除されたことにより、4年度より参加人数が増加した。			
エ 特集展示の見どころの紹介として、ミュージアムホールで「きゅーはく☆とっておき講座」(実施回数3回、参加者：256人)の講座を開催した。			
ク 特別展「アール・ヌーヴォーのガラスーガレとドームの自然賛歌」では、当館研究員を次の文化施設へ講師として派遣した。グランドカレッジ「アール・ヌーヴォーのガラス展」(西日本新聞ビジネス開発部 N-Studio、4月19日)、しっとこ九博展示解説講座「アールヌーヴォーのガラスーガレとドームの自然賛歌」(筑紫野市歴史博物館、4月20日)、九州国立博物館特別展応援セミナー「ガラスをめぐる歴史とアール・ヌーヴォーのガラス」((公財)九州経済調査協会、4月20日)、令和5年度文化趣味講座「九州国立博物館特別展解説講座 ～アール・ヌーヴォーのガラス～」(ピーポート甘木、5月16日)。			
特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」では、当館研究員を次の文化施設へ講師として派遣した。しっとこ九博展示解説講座「特別展『憧れの東洋陶磁』」(筑紫野市歴史博物館、7月20日)、九州国立博物館特別展応援セミナー「1時間でわかる!日本と東洋陶磁の長く深い歴史」((公財)九州経済調査協会、7月21日)、福岡歴史観光市民大学「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝—」(大手門パインビル2階会議室、7月24日)。			
特別展「古代メキシコーマヤ、アステカ、テオティワカン」では、当館研究員を次の文化施設へ講師として派遣した。福岡歴史観光市民大学「もっと楽しもう、特別展『古代メキシコ』」(NPO法人福岡城市民の会、10月10日)、しっとこ九博講座「もっと楽しもう、特別展『古代メキシコ』」(筑紫野市歴史博物館、10月19日)、BIZCOLI もっと楽しもう、特別展『古代メキシコ』((公財)九州経済調査会、10月27日)。			
ケ			
・多様な方に作品を楽しんでもらう取り組みの一環としてミュージアムトーク「獣の棲む鏡 -海獣葡萄鏡-」(8月26日、参加者：59人)を手話通訳付きで、特別展「古代メキシコ」リレー講座「もっと楽しもう!特別展『古代メキシコーマヤ、アステカ、テオティワカン』」(10月28日、参加者：146人)、きゅーはく☆とっておき講座「国宝 初音の調度について」(6年1月8日)を、手話通訳・要約字幕付きで開催した。アンケートには「良い取り組みで続けてほしい」「内容がよく分かった」などの感想があり、好評を得た。(参加者：70人、アンケート回収率90%)。また、作品の「観覧」が難しい視覚障がい者にも展示を楽しんでいただく取り組みとして「視覚障がい者と楽しむ対話型鑑賞会」を9月・12月の2回開催した(9月2日、12月23日、参加者：15人、13人、アンケート回収率80%)。参加者からは「誰とでもお話ししながら、一つ一つの展示物をゆっくり知ることができた(視覚障がい者)」 「言葉で伝える努力をすることで、より展示物をよく見た(晴眼者)」などの感想を得た。			
・新型コロナウイルス感染症蔓延時に中断していた「夜の博物館たんけん隊」を夜間開館が実施される特別展期間中			

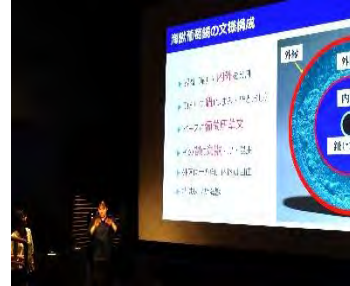
のみ復活し、参加者から好評を得た。(参加者 8月29日:16人、11月25日:32人、2月17日:34人 合計:82人※定員30名で実施)

- ・発達障がい者や感覚過敏の人が館に来る際、苦手な場所等の見通しを立てることができるよう、「あんしんマップ」(センサリーマップ)を制作した。①混雑する場所、②明るい場所・暗い場所、③音が出る場所、④においがする場所、①～④全てが掲載されているもの、の5種類を準備し、特別支援学校等に配布したほか、館内でも配布した。また当館ウェブサイトでも閲覧、ダウンロードできるようにした。

【補足事項】



視覚障がい者ととともに楽しむ
対話型鑑賞会



当館ボランティアによる
手話通訳付きミュージアム
トーク

【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評定	経年 変化	元	2	3	4
講演会等の満足度アンケート	96.3%	86%	B		80.2	92.3	92.2	93.8
講演会等の開催回数（関連指数）	44回	－	－		97	19	50	53
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展ではいずれも専門的かつ多角的な見地からの講演会やトークセッションを実施し好評を得た。 定期的な展示解説や研究成果の公表、また展示室関連イベントを実施したことで、文化交流展示室への興味と理解度を高める効果が認められた。また、障がい者を含め多様な方が楽しめる事業数が増加したこと、あんしんマップの多言語化や「カームダウンスペース」の設置を検討するなど、さらに充実が図れたことから高評価を得た。以上から所期の目的を完遂したと評価し、B評定とした。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 多様な世代や対象に対して、多角的な切り口での学習機会を提供するプログラムを実施した。また国内外の機関や施設との連携協力や講師招聘を行うことで、博物館に対する固定概念を払拭する事業も実施し、中期計画に基づく事業を順調に遂行した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-1 (九州国立博物館) オ、カ、キ			
担当部課	交流課 学芸部企画課 展示課	事業責任者	課長 高椋剛太 課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢
【実績・成果】			
(九州国立博物館)			
オ			
・ 体験型展示室「あじっば」では、「展示鑑賞ゾーン」「体験ゾーン」でアジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化、異文化交流について紹介した。「体験ゾーン」は、新型コロナウイルスが感染症法上5類に移行したことを受け、開室日を拡大し、衣装体験を再開するなど、新型コロナウイルス流行以前の運営方式への復帰を進めた。また、持ち帰りキット「おうち de あじっば」では特別展「古代メキシコ」の開催を受けて、ペーパークラフト「チチェン・イツァーを作ろう」を展開した。			
・ 甕棺墓埋葬体験ワークショップで活用するための衣装を追加で製作した。伊都国王の衣装として、吉野ヶ里遺跡にて復元している衣装などを参考にして、初めて子ども用の衣装を2セット製作した。			
・ 衣装体験時に使用する平安時代の背景パネルを製作した。背景画像には当館所蔵の大宰府政庁南門模型を使用し、菅原道真の時代(平安時代初期)の衣装に合う背景としたことで、場の盛り上げ効果、外部への宣伝効果があった。			
カ			
・ 職場体験として周辺の中学校を中心に9校を受け入れた。			
・ 博物館活用のための教員研修として、福岡市教職員互助会、熊本県私学教員研修会を受け入れた。			
・ 学校貸出キット「きゅうぱく」は、のべ41団体・47バックを貸し出し、3,540人の児童生徒が教育資料を体験した。			
・ きゅうはくきやらばんを計9回実施し、うち5回は移動博物館車「きゅうはく号」を出動させた。			
・ 学校教育活動支援事業では38校の学校団体を博物館に招待し、多くの児童生徒に博物館の楽しさや魅力を発信した。			
キ			
・ 特集展示「秋田蘭画ことはじめーそれは『解体新書』から始まったー」にあわせ、秋田公立美術大学附属高等学院とのオンライン授業をおこなった。授業終了後の生徒によるイラストレポートから地域の文化財に対する高い関心が見られた。(5月29日、参加者29人)			
・ インドネシアの楽器「ガムラン」に関するワークショップ(10月8日、参加者：28人)を開催した。ワークショップでは、田村史子氏(筑紫女学園大学人間文化研究所客員研究員)の指導の下、青銅製楽器の調律の見学、楽器を演奏し合奏するまでの体験を提供し、「調律の実演が面白かった」「興味深い内容で、もっと長い時間やっていたいと思う内容だった」「インドネシアの楽器を知ることができてよかった」など、参加者からは非常に好評であった。			
・ 弥生時代、北部九州で使用された棺、甕棺の埋葬方法を学ぶワークショップ「やさしい日本語 de きゅうはく2023 王さまが死んだ! 甕棺に入れよう」を開催した。亡くなった伊都国王を甕棺に埋める一連の流れを劇に参加しながら体験するワークショップ。劇の後は、参加者が実際に甕棺に入る体験も行った。子どもから大人まで幅広い年齢層が参加し、全ての人が「楽しかった」「よく理解できた」と回答し、好評を得た。(8月11日、2回開催、参加者：各回10人、計20人)			
・ 弥生時代から着用されてきた貫頭衣、古墳時代の衣装、平安時代初期の衣装を着る衣装体験イベント「古代人に 変身!」を開催した。年齢、国籍、性別を問わず大変好評で、特に外国人の参加が多かった。(11月11日、参加者：約70人)			
【補足事項】			
・ 体験型展示室「あじっば」では、10回の展示替えを実施した。入口横ディスプレイとあじ庵では特集展示を行った。			
・ 高校生の考古・歴史系部活動の活動成果を発表する場として、「全国高等学校歴史学フォーラム2023」を実施した。5年度は参加校数の上限を10校まで増やし、生徒数は各校2人までとした。今回で9回目の開催となった本フォーラムには、全国から15校17件の研究成果の応募があり、選考の結果、福岡県から5校、他県から5校が参加した。			
・ 筑紫地区中学校との共催による「筑紫地区中学校美術展」を開催し、中学生の美術科授業作品を展示した。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 あじっば体験ゾーンの平日開室や衣装体験の再開のほか、学校教育活動支援事業、学校貸出キットの提供、「きゅうはく号」の活用により、児童生徒だけでなく幅広い層に体験型コンテンツを提供することができたことから左記の評価とした。	
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 学校教育活動支援事業、職場体験、きゅうはくきやらばんの実施など、引き続き多くの学習機会を提供し、中期計画を着実に遂行できていることから左記の評価とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-①-1) (5館共通) ア (皇居三の丸尚蔵館) ア								
担当部課	展示・普及課			事業責任者	展示・普及課長 戸田 浩之			
【実績・成果】								
(5館共通)								
(皇居三の丸尚蔵館)								
- 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」に合わせ、鑑賞シート「しょうぞうかんでこれみっけ!」と題し、未就学児から小学生のお子様を対象に、ワークシートを無料配布した。配布枚数 計1,130枚 - 開館記念展「皇室のみやび」第2期「近代皇室を彩る技と美」では、鑑賞ガイドを制作し、展示理解の向上を図った。 配布枚数 計19,663枚 - 石川での地方展開展である皇居三の丸尚蔵館収蔵品展「皇室と石川ー麗しき美の煌めき」では、石川県立美術館において当館職員が出張ワークショップ「みんなでつくろう! 扇面散屏風」(11/18~19)を実施した。 参加者 11名 満足度 100% - 地方展開展において職員が講演し、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品などの魅力発信に努めた。 - 休館日を利用した幼稚園児向けのスクールプログラムを実験的に実施(12/11)し、今後の計画的な実施に向けた検討を行った。参加者70名 満足度 95.6% - 開館記念展「皇室のみやび」第3期「近世の御所を飾った品々」では、ギャラリートークを開催した。 (3/20 参加者: 午前132名、午後140名)								
   鑑賞シート「しょうぞうかんでこれみっけ!」 ワークショップ「みんなでつくろう! 扇面散屏風」 幼稚園児向けのスクールプログラム								
【補足事項】								
5年度は、一部開館中のため、教育普及スペースが限定される中で、ワークシートの配布や出張ワークショップなど工夫したうえで実施した。								
※【定量的評価】項目の満足度アンケートの数値は出張ワークショップ及びスクールプログラムの実績値								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評定	経年 変化	元	2	3	4
講演会等の満足度アンケート	98.8%※	-	-		-	-	-	-
講演会等の開催回数 (関連指数)	5回	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定: A	【判定根拠、課題と対応】 一部開館で教育普及スペースがない当館の特殊な事情を踏まえ、ワークシートの制作や出張ワークショップ、鑑賞ガイドの作成、ギャラリートークの開催などを適切かつ積極的に実施し、成果を上げた。 幼稚園児などの低年齢層から、中高生、高齢者も楽しむことが可能な幅広い普及事業を実施し、満足度も高水準を得た。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 8年度の全面開館時には、講演会なども可能な教育普及スペースが確保される予定である。今中期では、全面開館に向けさまざまな層に向けた教育普及プログラムの実績の積み上げと検証を行っており、着実に成果をあげている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-2) (東京国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ			
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 川岸瀬里
【実績・成果】			
ア 本館各所でのご案内、体験コーナーの運営（東洋館 6 室オアシス、本館 19 室みどりのライオン、本館特別 4 室）、ファミリー向けワークショップや講演会のサポート、トーハクキッズデーにおける各イベントのサポートを継続して行った。			
イ 点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、触知図や筆談ボード等を用いたご案内を継続実施した。また、来館者へのご案内に活かすため、感覚過敏やバリアフリー、ユニバーサルデザインに関する関心や理解を深めるためのボランティア対象研修や情報発信を行った。			
ウ 屋外で実施する対面ガイドツアー及びワークショップを行うグループの活動を継続するとともに、再開準備を進めていた法隆寺宝物館、東洋館、考古展示室のガイドグループによる対面ガイドは混雑対策を講じながら 5 年度に順次再開した。本館展示室での対面ガイドの実施は近年の展示室の混雑状況に鑑み、本館地下みどりのライオンにおけるスライドトークとして継続した。ただし「留学生の日」「トーハクキッズデー」などのイベント時には、従来のガイドツアーの枠にとどまらない新たな企画を行うなど、各グループの工夫が見られた。各グループとの打合せに加え、日ごろから研修会や練習会を開催し、これらの活動をサポートした。			
エ 段階的な活動再開のため、ボランティアによるスクールプログラムの実施は今年度も見合わせた。一方で、キャリア学習の一環として職場体験の受入は継続し、生徒による館内案内等の活動をボランティアがサポートした。			
オ 屋外および法隆寺宝物館、東洋館、考古展示室でのガイドツアーのほか、本館でのガイドツアーグループによるスライドトーク、6年度新規ボランティア希望者に向けた説明会及び通常のボランティア活動（基本活動）の様子を見学するためのボランティアによる館内ツアーを実施した。従来の形にとらわれず新たな手法や切り口でのガイドやプログラムに挑戦するグループもあった。			
			
ボランティアによるお茶会の様子		スライドトークの様子	
【補足事項】			
東京藝術大学大学院インターン4名を受入れ、主題や原稿の検討、トークの練習など合計21回の会合を重ね、1月～3月にお客様向けのスライドトークを合計15回実施した。各スライドトークの運営をボランティアがサポートし、合計546人の来場者をえた。ボランティア研修58回。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響拡大により休止していた活動も、館内の状況等に合わせながら順次再開した。コロナ禍から開始したスライドトークも継続する中で創意工夫がみられるなど、各種イベントにあわせ、実施方法や内容を工夫して実行することができた。以上のことから、B評価にした。	
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の 3 年目として、ボランティア活動の活性化と来館者への学習機会の向上を目指し、途絶えてしまっていた活動についても段階的に再構築し、再開した。また各種研修も再開し、来館者へのサービス向上を目指しながらボランティア自身の生涯学習にもつながった。自主的な工夫も見られ、各種イベントでのサポートなども積極的に行われていることからB判定とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-2) (京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 教育室長 大原嘉豊
【実績・成果】			
ア ハンズ・オン教材を用いた対話形式の鑑賞案内である「京博ナビゲーター（ボランティア）」は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年度より休止していたが、募集説明会（のべ3回）・選考・基礎講座（のべ8回）を実施し、1月10日より「ミュージアム・カート」での活動を再開することができた。			
イ 収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（17人）			
ウ 「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した（20回）。 「文化財ソムリエ」（20人）が、京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」（7回・参加者542人）を行った。			
エ 5年度は「京都・らくご博物館」未実施のため、ボランティアの起用はなかった。			
  文化財ソムリエに向けたスクーリング 京博ナビゲーターに向けた基礎講座			
【補足事項】			
ウ 「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティア20名に、当館研究員が20回のスクーリングを実施した。文化財そのものや、教育普及の手法について講義するとともに、授業案や教材の作成に際して議論を促すなど、指導・助言に努めた。			
エ 「京都・らくご博物館」については、コロナ禍以降、チケット販売数が激減したため、5年度は、開催時期、時間、内容、金額設定等を再検討することとし、興行を休止した。そのため、ボランティアの起用はなかった。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度に引き続いて、「文化財ソムリエ」による訪問授業を実施することができた。また、活動を休止していた「京博ナビゲーター」については、募集・選考・基礎講座ののち、6年1月より活動を再開することができた。	
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 「文化財ソムリエ」による訪問授業については、スクーリング内容や授業内容について改善を行い、より充実した活動を実施することができた。「京博ナビゲーター」については、6年1月から館内での活動を再開するとともに、6年度の特別展のワークショップに向けた準備を行うことができた。運営にあたっては各種マニュアルを整備する等、6年度以降の安定した活動のための地盤づくりも行うことができた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-2) (奈良国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	教育室	事業責任者	教育室長 中川あや
【実績・成果】			
ア 教育普及プログラムの新規考案： 5月16日に、なら仏像館と、主に特別展会場となる新館をつなぐ地下回廊の一角に、子どもから大人まで幅広い層が仏教美術について体験的に楽しく学べる、ならはく教育普及スペース「ちえひろば」を新設した。オープン以降の開館日毎日、【まいにちワークショップ】と【とくべつワークショップ】の2種のワークショップを開催している。この2種のワークショップの実施は、ボランティアが担当している。【まいにちワークショップ】では、仏像の素材となる木材に触れる、香りを嗅ぐ等のハンズオン展示「さわって！発見！仏像の木」を実施したほか、地下回廊の仏像模型展示コーナーの鑑賞をクイズ形式で楽しく鑑賞できるワークシート『仏像&ならはくミニクイズ！』を配布する活動を行った。加えて、当館に来館した思い出の川柳もしくは俳句を創作するワークショップ「ならはく5・7・5をつくろう！」を行った。【とくべつワークショップ】は、主に文化財の複製品等を活用する内容の体験型プログラムである。基本毎月第二日曜に、裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」を、そして基本毎月第四日曜には、当館所蔵の国宝「辟邪絵」や「地獄草紙」を題材として絵巻物について体験的に学ぶワークショップ「絵巻物をみて！きいて！さわろう！」を開催した。また、「ほとけさまに服を着せよう！」は学校プログラムの参加者も対象に実施した。			
イ オンラインプログラム： 大分県との連携事業で遠隔操作ロボットを活用した学校向けのオンライン中継授業を実施したほか、全国の子どもを対象になら仏像館の展示をオンライン中継形式で案内するオンライン子ども大学「こどハピ」に参加した。			
ウ 研修： ボランティアを対象に研修用の動画を配信し、ボランティア活動の資質向上を図った。			
【補足事項】 ア：「さわって！発見！仏像の木」実施日数：267日、『仏像&ならはくミニクイズ！』配布枚数：15,421枚、「ならはく5・7・5をつくろう！」参加人数：860人、「ほとけさまに服を着せよう！」実施回数：60回、見学者4,467人、着つけ体験の参加者数は1,344人、「絵巻物をみて！きいて！さわろう！」実施回数：15回、絵巻の読み聞かせ見学者数：2,008人、絵巻の複製品に触れる体験参加者数：1,403人 イ：大分県との連携事業の遠隔操作ロボットを活用した学校向けのオンライン中継授業実施回数：3回、参加者数：56人、オンライン子ども大学「こどハピ」実施回数：2回、参加者数：159人 ウ：ボランティア対象研修用動画21本			
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 5年度より、ならはく教育普及スペース「ちえひろば」を新設し、ボランティアを中心に運営する教育普及プログラムを新たに複数考案したことで、極めて活発なボランティア活動を展開することができた。いずれのプログラムも実施回数が多く、かつ、従来の展示解説ではない方法で来館者と積極的に関わる、新たなボランティア活動であり、非常に高く評価できるため、Aと判定した。	
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 対面形式のワークショップ活動を新たに展開したほか、全国の子どもを対象としたオンライン中継プログラムであるオンラインこども大学「こどハピ」に初めて参加するなど、ボランティアが活躍できる新たな活動に取り組んだ。これらの取り組みは、来館者に提供できるサービスの充実に繋がると評価できる。また、ボランティアを対象とした研修動画の配信も、そうした来館者サービス向上につながるものと考え、順調に計画を遂行できている。	



まいにちワークショップ

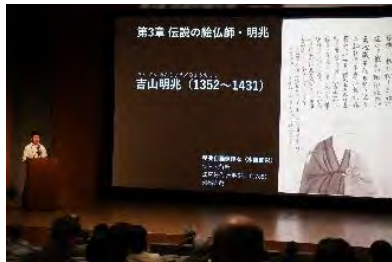


とくべつワークショップ「絵巻物をみて！きいて！さわろう！」での絵巻の読み聞かせ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																				
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援																				
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-2 (九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ																					
担当部課	交流課	事業責任者	課長 高椋剛太																		
【実績・成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により休止していたボランティア活動は4年度に再開し、5年度はコロナ前を上回る成果をあげた。 ア ボランティア(221人)は次の12部会いずれかに所属し、主体的に活動している。 展示解説(47人) 文化交流展示室における展示案内及び「Qボックス」での質問対応 教育普及(26人) 体験型展示室「あじっば」内における活動支援及び展示物の説明、当館の教育普及事業への支援 館内案内 日本語(29人)、英語(18人)、中国語(7人)、韓国語(15人) 多言語による施設案内及びバックヤードツアーの実施、「ボランティアカウンター」での来館者対応 環境(26人) 文化財環境保全のためのIPM活動及び館内美化活動の支援 イベントサポート(7人) 来館者向けのイベントの企画・立案・運営、ボランティア広報誌の制作・発行 資料整理(8人) 郷土人形(秋吉コレクション)の調書作成及び展示 学 生(5人) 来館者向けのイベントの企画・立案・運営 フィールド(14人) 遊歩道の維持管理、山林の保全活動 手 話(19人) 手話通訳での館内案内及びバックヤードツアー、展示案内の通訳、聴覚障がい者対応のイベント支援 イ ボランティアのスキルアップとモチベーション向上のため、専門講座や館外研修などを実施した。 ウ ボランティアが自ら企画し運営する各種イベントを計13回行い、多くの来館者が参加し好評を得た。 エ 小中学校の児童生徒を対象とする「学校教育活動支援事業」(博物館概要説明、展示解説、バックヤードツアー)をボランティアの案内、解説により実施した。																					
【補足事項】 ・ ボランティアによる来館者案内人数(単位:人) 「学校教育活動支援事業」の参加者は含まない。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>元年度</th><th>2・3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>館内案内・展示解説</td><td>13,385</td><td rowspan="3">休止</td><td>8,884</td><td>13,154</td></tr> <tr> <td>バックヤードツアー</td><td>2,343</td><td>2,744</td><td>2,849</td></tr> <tr> <td>案内総数</td><td>15,728</td><td>11,628</td><td>16,003</td></tr> </tbody> </table> ・ 専門講座は、「展示案内研修(仏像、やきもの、古文書)」、「環境研修(九博周辺の自然環境について)」、「韓国と日本の文化的関わりについての講話」を実施した。 ・ 館外研修は、8部会が先進地を調査し、スキルアップを行った。 ・ 展示解説: 吉野ヶ里歴史公園ほか ・ イベントサポート: 九州陶磁文化館ほか ・ 教育普及: 木屋瀬資料館ほか ・ 韓国語: 太宰府天満宮周辺 ・ 日本語: 大牟田市石炭産業科学館ほか ・ 環境: 九州大学図書館ほか ・ 英語: 熊本城ほか ・ フィールド: 別府市竹細工伝統産業会館ほか ・ ボランティア主催イベントは、教育普及、環境、イベントサポート、学生の各部会が中心となって計13回実施し、多くの来館者に喜ばれた。特に、7月に教育普及部会が主催した「あじっば夏祭り」では、2日間で延べ600人以上が参加した。 ・ 5年度の「学校教育活動支援事業」では、38校、2,239人の児童生徒を受け入れた。				項目	元年度	2・3年度	4年度	5年度	館内案内・展示解説	13,385	休止	8,884	13,154	バックヤードツアー	2,343	2,744	2,849	案内総数	15,728	11,628	16,003
項目	元年度	2・3年度	4年度	5年度																	
館内案内・展示解説	13,385	休止	8,884	13,154																	
バックヤードツアー	2,343		2,744	2,849																	
案内総数	15,728		11,628	16,003																	
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 ボランティアは高齢者も多く、ボランティアの意見を尊重し、さまざまな新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら活動を再開した。 ボランティアのモチベーション向上やスキルアップにより、来館者の案内人数はコロナ前を上回る実績となった。 ボランティアが自ら企画し運営する主催イベントは、多くの来館者が参加し、参加者の声として、「初めての体験でとても楽しかった。」「普段はできないような体験ができてとてもよかった。」「ほかのワークショップイベントにも是非参加してみたい。」などの高い評価を得た。																			
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。																					

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、4年度から徐々に活動を開始したボランティアが2年目を迎え、本格的な活動となる中、その成果がモチベーションのアップにつながる好循環が生まれた。 来館者への対応が質・量ともに充実するとともに、ボランティア自ら様々な活動を主体的に行うようになっていくことから、中期計画を上回る成果を上げていると判断し、A評定とした。
---------------------------------	---

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-3) (4 館共通) ア			
・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア			
・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館) ア、イ			
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 鈴木みどり
【実績・成果】			
(4 館共通)			
ア キャンパスメンバーズ加入校数 67 校 (内訳 法人：3、大学：56、専門学校：2、学部：6) が本制度を利用し、29,841 人の学生、1,553 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、学生に対する特別展割引については、展覧会ごとに割引料金を設定し実施した (5 年度は、特別展「東福寺」、特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」、「横尾忠則 寒山百得」展、特別展「本阿弥光悦の大世界」で実施した)。			
(東京国立博物館)			
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の事業や取組についてスライドトーク形式でレクチャーする「博物館セミナー」、及びキャンパスメンバーズ加入校の中でも将来学芸員を志望する学生を対象とし、博物館実務全般について講義・実習する教育連携事業「博物館学講座」を実施した。4 年度はオンライン配信となった「博物館セミナー」を平成館大講堂にて対面で開催したほか、2 年度～4 年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止していた「博物館学講座」を 4 年ぶりに再開した。			
イ			
・ 国際交流及び日本文化の紹介を目的として 10 月 7 日 (土) に「留学生の日」を開催し、留学生等は総合文化展を観覧無料とし、567 名の留学生等が来館した。同日は国際交流室員によるギャラリートークや、ボランティアによるアートスタジオ「留学生のための根付づくり」及び各種ガイド、寄席イベント「トーハク笑楽座 TOHAKU Show-RAKUZA」を実施した。			
・ 日本大学芸術学部美術学科彫刻コースとの共催により、柳瀬荘を会場として、当該美術学科彫刻コース教職員・学生と卒業生による作品展、令和 5 年度「第 9.5 回 柳瀬荘アート・教育プロジェクト：彫刻と教育」を 14 日間にわたり実施した。			
・ 東京国立博物館インターンシップを再開し、20 名のインターンを受け入れた。情報資料室、情報管理室、出版企画室、教育講座室、総務課の各部署で活動した。			
・ 東京藝術大学大学院インターンを 4 名受け入れ、本館地下みどりのライオンでお客様向けのスライドトークを合わせて 15 回実施した。			
			
		博物館学講座の様子	
【補足事項】			
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象とした「博物館セミナー」(9 月 6 日、申込 25 校、参加数 230 人)			
・ キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象とした「博物館学講座」(9 月 4 日～5 日・7～8 日、申込 18 校各 1 名、参加数 17 人)			
イ 日本大学芸術学部美術学科彫刻コースとの共催：令和 5 年度「第 9.5 回 柳瀬荘アート・教育プロジェクト：彫刻と教育」には、364 名が来場した。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5 年度にはキャンパスメンバーズ制度へ新たに 7 校が加入したほか、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類に移行したことを受け、ここ数年制限されていた活動を再開し、対面での講義・実習を積極的に行った。これに伴い大学側とのコミュニケーションの機会も増え、より緊密で細やかな連携の需要も高まっている。これを受け、今後も継続的に大学との連携を深めていきたい。	
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ制度の特典として明示している教育連携事業「博物館学講座」を 4 年ぶりに再開するなど、コロナ禍以前に行っていた活動を本格的に再始動させることができた。今後は、コロナ禍において実施したオンライン配信等の新しい手法の利点も適宜活用しながら、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 教育室長 大原嘉豊
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア			
・ キャンパスメンバーズへの入会の新規勧誘を行うと同時に、加入校 33 校との連携を行った。またより良い制度の構築を目指し、加入校へのヒアリングを行った。			
・ 加入校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。			
(京都国立博物館)			
ア			
京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古学・陶磁）、山川暁（染織）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の4人が大学院生（博士課程在学者）に対して、京都国立博物館で、対面方式で文化財に関する講義・演習を行った。受講学生は計16人である。また、所属する博士後期課程3人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。			
【補足事項】			
ア			
・ キャンパスメンバーズの加入を案内するチラシを作成し、未加入校への広報活動を実施した。			
・ 親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞—生涯と名宝」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月14日 講師：調査・国際連携室研究員 上杉智英）（1回・52人）			
・ 特別展「東福寺」キャンパスメンバーズ向け講演会（11月16日 講師：列品管理室研究員 森道彦）（1回・59人）			
			
		キャンパスメンバーズ向け講演会	
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価：B		キャンパスメンバーズについては、より多くの学生・教職員に利用してもらえるように広報活動を行った。また、5年度も、特別展の見どころを紹介する講演会を開催した。加えて、今後のよりよいキャンパスメンバーズ制度のためのアイデアをいただくため、加入校へヒアリングに伺い、関係性の構築に努めることができた。 また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことで、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。	
【中期計画記載事項】			
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価：B		キャンパスメンバーズの加入校数は安定しており、大学等の連携もできているため、中期計画を順調に遂行しているといえる。今後はキャンパスメンバーズ加入校のより多くの学生に当館のサービスを利用してもらえるように広報活動により注力していく予定である。また、引き続き地域の未加入の大学に加入してもらえるようにヒアリングや営業活動での訪問を積極的に行っていく予定である。 京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財にかかわる人材育成に貢献していくこととする。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア、(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア、(奈良国立博物館) ア	
担当部課	総務課
事業責任者	課長 平石憲良
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズの勧誘及び更新を継続し、入会校数は4年度同数の27校となった。加盟校とは連携を継続した。 奈良教育大学大学院修士課程「伝統文化の継承と発信」履修の大学院生達と連携し、特別展「聖地 南山城」に関連した親子向けのワークショップ「飛び出すほとけさま！サプライズボックスをつくろう！～あけてひろがる！薬師の世界～」を企画し、8月12日に当館で2回開催した。ワークショップの参加者数は38人だった。 (奈良国立博物館) ア 奈良女子大学と神戸大学へ引き続き連携講座のための講師派遣を行った。	
【補足事項】 (4館共通) ア ・加盟校27校のうち、希望のあった16校と意見交換を実施したところ、キャンパスメンバーズ制度を知らない学生が多い、学生向けのイベントを開催してほしい、といった意見が多かった。そのため、今後のキャンパスメンバーズ向けの広報計画・イベント計画を立案する際に意見を反映し改善を行う。 ・浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地 南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」において、加盟校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を8月3日に実施し、13校103名の参加があった。 ・奈良女子大学との協定書に基づき講師派遣を行った。また、より良い大学教育のため、協定書の更新について双方で検討を進め、6年2月に新たな協定書を締結した。 (東京・奈良・九州) ア ・5年度の希望者はなかったが、インターンシップの受け入れを継続して行った。	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 加盟校の学生及び教職員を対象にした特別鑑賞会を実施し、各展覧会や館の活動に対する参加者の理解を深めることができた。 また、加盟校の事務担当者と意見交換を行うとともに、地元大学との産地学官連携プラットフォームに参画し、教育機関との連携を推進した。 以上の取り組みから、計画を着実に実施することができたと考え、B評価とした。
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度より開始したキャンパスメンバーズ加盟校対象の特別鑑賞会を5年度も継続し、多くの学生・教職員の展覧会への理解度を深めることができ、中期計画を遂行することができた。キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、加盟校の事務担当者との意見交換で出た意見を反映し、内容の充実及び機会の提供を図るとともに、さらなる加盟校の増加を目指す。



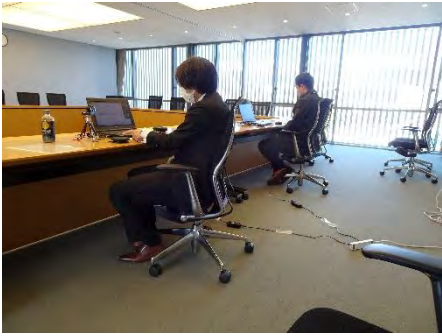
キャンパスメンバーズ特別鑑賞会

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-①-3) (4館共通) ア ・ I-1-(3)-①-3) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア ・ I-1-(3)-①-3) (九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長 木川りか 課長 高椋剛太 課長 執行正一
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア			
・ キャンパスメンバーズによる大学等との連携を継続して実施した。(5年度における加入校内訳：大学10校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校)			
・ 九州大学の「統合生物学特論I」において、文化財の保存に関わる研究や実務について講義した(11月)。			
・ キャンパスメンバーズではないが、西南学院大学の「博物館資料保存論」を、当館のスタッフ7人によるオムニバス講義として実施した(4月～7月)。			
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)			
ア 5年度は、修理の学生インターンシップは工房の業務量の関係から見送った。			
(九州国立博物館)			
ア 博物館実習生を受入れ、実習を実施した。			
実施期間：8月16日～19日、22日～23日(6日間)			
内容：博物館の各機能に関する講義、実習			
博物館実習生を17大学から19人受入れた。			
(うち、キャンパスメンバーズ校は4大学6人)			
イ 放送大学の面接授業を実施した。			
11月9日～10日(2日間)、19人受講 講師8人			
			
博物館実習風景			
【補足事項】			
・ 大学との連携事業			
「きゅーはくカフェコンサート」			
実施日程：7月14日、12月15日			
内容：福岡女子短期大学音楽科の学生による室内楽コンサートを開催した。			
「博物館浴」実証実験			
実施日程：6年1月5日			
内容：九州産業大学により展示室見学の前と後で生理的・心理的にどのような変化が生じるかの実証実験を実施した。			
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		大学等と連携した事業を継続して実施した。博物館実習では、17大学から19人を受け入れ、計6日間実習を行った。さらに、放送大学の面接授業は19人に対して実施し、年度計画を達成した。	
【中期計画記載事項】			
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		当館が対応でき得る適切な数の実習生・研修生の受入を行い、中期計画どおり、人材育成に寄与できた。引き続き、広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。	



博物館実習風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 和田浩
【実績・成果】			
1) 研究発表実績			
修理技術に関する研究成果を公表し、修理技術者との情報共有を行った。			
・「タンニン酸鉄媒染綿布に対するフノリと膠処置による保存方法の検討」(文化財保存修復学会第45回大会) 6月25日、於国立民族学博物館、発表者・Ajla Redzic, 佐藤萌, 一宮八重, 渡邊尚恵, 早川典子			
・「東京国立博物館所蔵カトリック・メダルの金属組成」(日本文化財科学会第40回記念大会) 10月21日、於なら歴史芸術文化村、発表者・片多雅樹, 浅野ひとみ, 今野春樹, 中島金太郎, 野中昭美, 西木政統, 増田政史			
・「東京国立博物館の保存修復室の取り組み」(2023年度 日韓学術人的交流事業) 11月30日、於韓国・国立中央博物館、発表者・野中昭美			
2) 国内外の保存修復分野に携わる人材の技術的相互支援等			
有形文化財の修理に関する人材が技術的に相互指導する取り組みを行った。			
・SL 煤の汚れに関する基礎調査 5月19日、於東日本旅客鉄道(株) 高崎支社 ぐんま車両センター			
・FT-IR による華角貼作品の材質調査 (東京藝術大学文化財保存科学研究室 塚田全彦, Boris Pretzel, 小椋 聡子) 11月7日、於東京国立博物館			
・法隆寺宝物館上代裂修理に関する意見交換 (アベッグ財団・スイス/ユーピン・リン氏、斉藤奈央氏) 12月20日、於東京国立博物館			
・法隆寺上代裂修理に関する意見交換 (宮内庁正倉院事務所保存課整理室) 12月20日、於東京国立博物館			
			
FT-IR による華角貼作品の材質調査		韓国・国立中央博物館における学術人的交流事業	
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 研究会において、研究成果および修理経験から得られた知見に基づいた修理技術に関する研究成果を発表することにより、国内外で修理に携わる人材と適切な情報共有すること、および技術的相互支援を効果的に実施できた。コロナ禍という事情もあって、あまり実施されていなかった国内外の文化財修復分野に携わる人材と具体的な修理技術情報の交換や相互支援について対応できたと考えている。	
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 保存修復分野の技術は伝統技術的な要素が大きく、特に国内では客観的な視座から研究を進めて、広く成果を公表することが難しい状況下で、中期計画の3年目として十分な研究実績を上げることができた。今後は保存修復分野に携わる人材の育成について、分野やキャリアなどを見極めて、どのように支援していくのか、焦点を絞って活動を継続する必要があると考えている。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 羽田聡
【実績・成果】 ・ 4月及び奇数月に文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に一回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回7回、会議7回) ・ 当館開催の特別展において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・142人) 特別展「親鸞 生涯と名宝」(4月17日・71人) 特別展「東福寺展」(10月10日・71人) ・ 新型コロナウイルスの感染対策を講じ、保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を開催した。(9月1日・14名) ・ 文化財修復に係わる大学院生(2人)のインターンシップ実習を8月21日～10月31日の間に実施した。あわせて、12月1日にインターンシップ報告会をオンラインにて開催し(出席者32人)、報告書を作成した。 ・ 博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。(計14回・81人) 財務省、文化庁(5月13日・8人) 大臣官房文教施設企画・防災部参事官、文化庁(5月17日・6人) 参議院文教科学委員会、参議院事務局、文部科学省、文化庁(7月4日・19人) 文化庁(11月7日・6人) 他42人			
【補足事項】 ・ 文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修理状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。 ・ 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の目的意識の向上を図ることができた。 ・ 文化財修復にかかわる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。 ・ 4年度に続いてインターンシップ報告会をオンライン形式で開催した。これにより多くの教員・学生が参加可能となった。			
			
インターンシップ報告会(オンライン)			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 一部、回数や人数が減少に転じた項目も存在するが、年度計画に掲げる「国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与」については、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会及びインターンシップ実習を、新型コロナウイルスへの対策を講じながら、4年度と同規模で実施することで、初期の目標を達成できたと判断したため。	
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所の当館研究員による巡回や、定例会議の開催により、修理技術者との意思疎通を図りながら、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会及びインターンシップ実習など、人材育成に係る事業を継続して実施し、中期計画3年度として、順調に計画を遂行できていると判断したため。	



インターンシップ報告会(オンライン)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行
【実績・成果】 (4館共通) ・保存修理技術者を対象とする研修会を6年2月9日に開催した。 ・海外の修理技術者等の視察を2回計7人、首里城復興に伴う沖縄からの修理技術者等の視察を13人受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。			
【補足事項】 ・文化財保存修理所技術者研修会 6年2月9日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。文化財保存代表者からの修理に関する報告(「修理者研修会 装演分野の修理設計書について」)と討議を行った。参加者は31人であった。 ・視察の内訳 5月8日：韓国国立文化財研究院職員による視察(3人) 7月27日：アルメニア共和国エチミアジン博物館職員等による視察(4人) 12月15日：沖縄県美ら海財団職員による視察(13人)			
			
修理者研修会の様子			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、5年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことに伴い、韓国、アルメニア共和国の専門家の文化財保存修理所視察を受け入れることができ、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができた。また、首里城復興に関わる沖縄県の修理技術者についても木彫文化財の修理の考え方などについて議論することができ、計画通り事業を遂行することができた。以上の理由から、Bと評価した。引き続き6年度も継続して取り組む。	
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、保存修理所技術者研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流を図ることができた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画を順調に進めることができたと判断し、Bとした。	

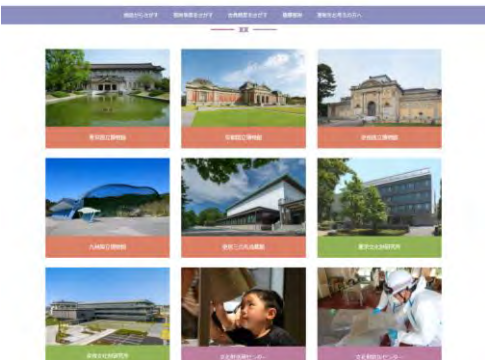
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-4) (4館共通)			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 ・ I-1-(3)-①-4) (4館共通) ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流協定事業を再開し、現地における保存修理従事者の人材育成に寄与することができた。また修理技術者と協力した教育普及活動として、館内職員による寒糊炊きを実施した。			
【補足事項】 ・ ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流協定に係る事業 日 程：10月16日～27日 協力者：修理工房宰匠（株） 内 容：ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業は、日本の修理技術者と当館職員が現地に同館の保存修理従事者とともに修理を実施することで、技術移転により人材を育成することを目指し、平成25年度から公益財団法人住友財団の助成を得て実施している。元年度から始まった神勅（紙文化財）16通の修理事業（3か年度継続事業）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2～4年度は中断していたが、5年度に再開し、現地に8通の修理を行い、人材育成も兼ねて周辺施設の学芸員を交えた修理報告会を実施した。6年度（最終年度）は、残り8通の修理を行う予定である。			
・ 寒糊炊き 開催日：6年1月19日 協 力：修理工房宰匠（株） 内 容：寒糊炊きは、一年間の最も寒い大寒の時期に合わせて、書画の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊〈新糊〉を約10年間、涼暗所で寝かせて接着力を弱めた糊）のもととなる新糊を炊く作業で、開館以来、文化財修理の意義を周知する機会とするため公開で実施してきた。2年度以降は感染症拡大防止の観点から館内職員のみにて実施しており、5年度も同様に実施した。		 ベトナム国立歴史博物館 における技術移転 (左から3人目が日本の修理技術者)	
 寒糊炊き			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度は、2年度以来中止していたベトナム国立歴史博物館との学術文化交流協定事業を再開し、保存修理事業者の人的育成に寄与することができた。寒糊炊きは引き続き、館内職員のみにて実施した。	
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度に続いて、一部の研修等については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を中止した。しかし、文化財の保存・修理に関わる人材育成の継続のため、修理技術者等と連携しながら、対応可能な時期や内容を検討して実施することで、中期計画に沿って事業を遂行した。5年度に中止又は規模を縮小した研修等については、6年度以降の再開に向けて関係者にて協議、検討を行った。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-①-5) (東京国立博物館) ア、イ			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典
【実績・成果】 (4館共通) ア 会員総数は15,824件となり、4年度(14,561)から一割増となった。 イ ・賛助会員及びその同伴者を対象として11月13日(月)に賛助会感謝デーを実施した。感謝デーでは、事業報告会、研究員による特別講演、特別展「やまと絵ー受け継がれる王朝の美ー」の貸切観覧、軽食の提供を行った。 ・各特別展の内覧会実施時には、賛助会員向けの内覧の時間を設けた。 ウ ・賛助会団体会員である、みずほ銀行の「みずほプレミアムクラブ会員」向けにオンラインと実参加の同時イベントを、11月23日(金)に実施し、当館及び賛助会制度についての認知度向上に努めた。 ・4年度に実施した「150年後の国宝展」で構築した株式会社BANDAI SPIRITSとのネットワークを活かし、7月30日(日)に実施したキッズデーにあわせて、株式会社BANDAI SPIRITS主催のプラモデルの組立体験会を表慶館にて行った。 (東京国立博物館) ア ・賛助会員(個人プラチナ会員)向けの特別見学(ガイドツアー)を実施し、継続的な支援者獲得の促進を図った。希望された会員に対し、関心のある分野を伺い、担当研究員から解説を受けながら見学してもらうことで、資料・作品への理解を深めていただいた。 ・賛助会個人会員限定のツアー「研究員と巡る“雪舟の足跡”ツアー」(11月6日(月)から8日(水)まで、2泊3日)を企画し、有償で実施した。研究員による解説付きで、岡山県(雪舟生誕地公園、宝福寺他)及び山口県(毛利博物館: 国宝四季山水図巻(山水長巻)、山口県立美術館(展覧会「雪舟と雲谷派」他)の雪舟ゆかりの地及び作品を見学した。本ガイドツアーには、賛助会員6名が参加した。 イ ・上野恩賜公園開園150周年総合文化祭に協力し、上野恩賜公園内に特設ブースを出展して、ポスター掲示や当館の紹介、会員制度のリーフレット配布を行い、周知に努めた。 ・上野の山文化ゾーン連絡協議会に参加し、引き続き上野地区各施設との連携を図った。また、東京文化会館主催の「夏休み子ども音楽会」「Music Program TOKYO まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」等、上野地区の施設と協力しての連携事業も継続して行った。 ・上野地区の文化施設や近隣商店会等と協力を行い、博物館の役割を周知する目的の事業「上野ミュージアムウィーク」を国際博物館の日(5月18日(木))を中心に、複数の一般参加型イベントを実施した。			
【補足事項】 ア 賛助会員件数662件の内訳は、個人会員585人(プラチナ13人、ゴールド77人、シルバー495人)、団体会員77団体(プレミアム3団体、特別21団体、維持53団体)である。			
【年度計画に対する総合評価】 評価: A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策について緩和が可能となった現在、会員数は更に増加傾向となっている。また、5年度の賛助会寄附金額は1億2千万円を超え、4年度の約1.6倍と大きく増加しており、博物館支援者増加への取組として大きな成果を得られたと言える。特に、賛助会のイベントについて、対面参加も含めた会員向けの企画や支援者獲得のための活動をより強化して再開できたことが、個人会員、団体会員ともに増加につながったとみられる。また、企業等との連携によるイベント等を通じ、賛助会等の制度について認知度を高めることができた。		
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 会員数は特別展の内容などにより増減の影響があるものの、寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移している。新型コロナウイルスの影響で、2、3年度には会員数に減少がみられたが、4年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、活動を再開できたことから、4年度になり増加に転じ、5年度はさらなる増加につながった。博物館の支援基盤の充実のためにも、今後も引き続き支援者の増加に努める。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ、(京都国立博物館) ア、イ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 部長 尾野善裕
【実績・成果】 (4館共通) ア 「国立博物館メンバーズパス」の会員数は4年度より増加傾向にあり、5年度においても引き続き、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた結果、4年度より会員数は46名増加した。 イ 当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、4年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。 ウ 4年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトへ参加した。 三菱商事株式会社関西支社との共同事業「障がいのある方のための特別鑑賞会」や、ヤサカタタクシー協力のもと、タクシー車両へのリアステッカー掲示による広報活動を行った。 エ 企業等 (DNP大日本印刷、京都女子大学、岩谷産業、きんでん、大和ハウス工業、非破壊検査等) から、展覧会事業について各種支援 (協賛・協力) を得た。 (京都国立博物館) ア ・一般社団法人清風会が行う鑑賞会 (4回)・見学会 (3回)・会報 (4回) の解説、執筆及び総会の開催に協力した。 ・親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞一生涯と名宝」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムを実施した。 イ ・ミュージアムパートナー制度では、新たに1社 (東レエンジニアリング株式会社) がパートナーに加わった。 ・文化財保護基金では、企業等からの寄付金を引き続き受け入れ、連携を図った。			
【補足事項】  タクシーのリアステッカー			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携では、「障がいのある方のための特別鑑賞会」の開催やタクシーのリアガラスへの展覧会広報ステッカーの掲出など、複数の企業との間で多面的な事業展開ができた。特に、「障がいのある方のための特別鑑賞会」については、障がい者が気兼ねなく鑑賞できるよう休館日に設定しており、参加者の満足度も高く、「また来たい」、「特別鑑賞会がなければ来るとはなかった」ので、大変ありがたかった。今後も定期的に実施していただきたい」という意見があり、館の認知度向上にも大いに資するところがあったと考えられるので、今後も継続を予定している。 「ミュージアムパートナー」、「国立博物館メンバーズパス」、博物館支援団体「清風会」の会員数については、これまでの広報活動の結果、増加傾向にある。 以上、年度計画を順調に達成しているため、全体としてはBと評価する。	
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ギフト開発やタクシーステッカーでの展覧会広報、「障がいのある方のための特別鑑賞会」など取り組みに対して、高い評価が得られた。また、ミュージアムパートナーの支援者増加したこと、積極的な広報展開により「国立博物館メンバーズパス」と博物館支援団体である清風会の会員数が4年度に続き増加傾向にあるため、全体としてはBと評価する。	

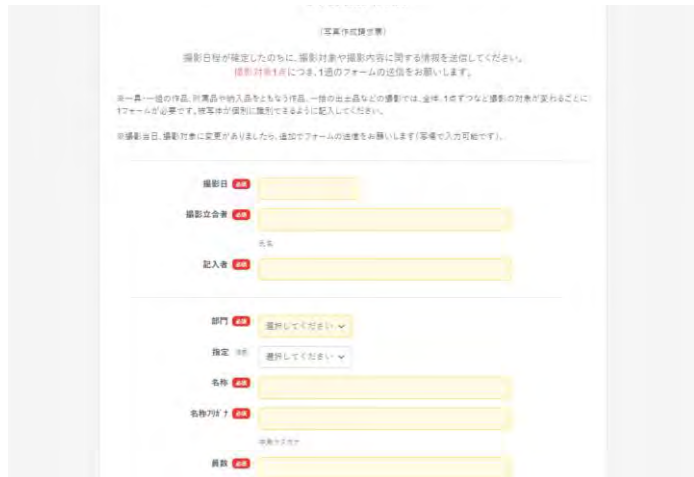
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 平石憲良
【実績・成果】 (4館共通) ア 賛助会入会案内チラシをイベントや講演会等で配布し、賛助会員の新規獲得を図った。 イ 賛助会員、奈良博メンバーシップカード会員を対象として、研究員による解説付き特別鑑賞会を実施した。 ウ 大手百貨店と連携してコラボレーションギフトを製作し、自己収入の増加と当館の認知度向上を図った。 エ 展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。また、文化財活用センターと連携し、寄附金額増加のための取り組みを実施した。 (奈良国立博物館) ア 協賛企業等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。 イ 特別展の実施に際し企業等からの協力金を得て、特別展の充実を図った。 ウ 賛助会員143(特別支援会員:2団体、特別会員6団体、一般会員(団体):14団体、一般会員(個人):121名)となり、4年度より16件増加した。 エ・地元商店街、地元企業、地域協議会及び地元自治体と連携して観光イベント、スタンプラリー、入館料割引等を実施することにより、当館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。 ・企業と連携し、不用品の査定換金額が当館に寄附される取り組みを継続した。			
【補足事項】 ・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、当館の認知度向上に繋がった。 ・奈良市と連携し、ふるさと納税の返礼品として当館の過去の特別展図録を提供した。 ・奈良マラソン実行委員会(奈良県ほか)と連携し、奈良マラソン2023ポスターのビジュアルに、4年度から引き続き当館の収蔵品である「伽藍神立像(走り大黒)」が起用されたほか、マラソン参加者に対しては当館窓口でビブス(ゼッケン)を提示することで、特別展・名品展(平常展)の入館料割引を行い、誘客と認知度向上に努めた。 ・文化財活用センターと連携して寄附金を募るパンフレット及び新しい募金箱を制作した。パンフレットはイラストを多用した親しみやすいデザインとし、募金箱は寄附金の使い途や意義を目立たせるデザインにすることで、寄附金の増加を図った。			
			
ふるさと納税返礼品		奈良マラソンポスター	
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 メンバーシップカード会員へ賛助会の特典を案内する等、賛助会会員の増加に努めた結果、4年度比16件の増加に繋がった。 また、奈良マラソンやスタンプラリー協力等自治体、商店街等との連携事業を実施し、当館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。さらに、新しい募金箱の設置や寄附パンフレットの制作等に取り組み寄附金の増加を図った。着実に計画を実施できていると判断し、B評価とした。	
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、特別鑑賞会の開催、刊行物の送付などを継続し、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上、新規顧客の獲得に繋がっていることから、中期計画を順調に遂行できている。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (4館共通) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-①-5) (九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長 高椋剛太 課長 野田智子 課長 執行正一
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展示室の環境整備工事に伴って6年4月から12月まで特別展の開催がなく、従前どおりのサービス提供が難しかったため、6月11日をもって友の会及びメンバーズプレミアムパスの一般向け販売を中断した。国立博物館メンバーズパス等については、ウェブサイト等による広報を行い、引き続き利用者の拡大に努めた。 イ 友の会会員や賛助会個人会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。賛助会団体会員については、会員からの要望に基づき、特別鑑賞会ではなく日時指定のない招待券の配布形式により鑑賞の機会を提供した。 ウ ・ JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特集展示や広報番組の告知を行った。 ・ ホテルカルティアと連携し、11月25日(土)「夜の博物館たんけん隊」イベントを宿泊者に周知し、参加者増を図った。 エ ・ 協賛企業の協力を得て、当館の広報番組「太宰府・九博 散歩道」を制作し、月1回、10月から3月に TVQ九州で放映。館所蔵の文化財の魅力や歴史に裏付けされる太宰府の魅力、展示情報を地元高校生、大学生の協力を得て紹介した。(九州国立博物館) ア 賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。5年度の新規加入は、個人4人、団体1団体であった。 イ 「九州国立博物館を愛する会」と協力し、6年3月の桜開花時期に合わせて「桜まつり」を実施した。また、「九州国立博物館を愛する会」からの依頼に基づき、複数の研究員が会報誌に寄稿した。さらに、「九州国立博物館を愛する会」や「太宰府観光協会」の会員を対象とした特別観覧会を実施した。 ウ 支援団体からの財政的な支援により、空港や主要な駅へ広告を掲出することができた。 エ ・ 特集展示「誕生250年記念 秋田蘭画ことはじめ」では、秋田県福岡事務所と協力し、秋田県を紹介するパネル展や物産販売、「なまはげ」との写真撮影、秋田犬とのふれあい会といったイベントを開催し、展示と秋田県魅力を周知した。また、秋田県内の高校生(秋田公立美術大学附属高等学院)を対象に、オンラインで展示解説を実施した。 ・ 発祥600年を迎える福岡県の特産品「八女茶」を使用した、ご当地ノベルティを民間事業者と連携して製作し、文化交流展の新春特別公開に合わせて、来館者へ配布した。 ・ 太宰府天満宮及び宮地嶽神社との共催により小中高生による書道優秀作品展をそれぞれ実施した。 ・ 直方市及び朝倉市との共催により「秋月藩・東蓮寺藩誕生400年記念事業パネル展」を実施した。 ・ 筑陽学園高等学校との共催により高校2年生の企画による国際交流イベント「ミニ万博in福岡」を実施した。 ・ 大野城市、那珂川市、太宰府市、春日市、筑紫野市との共催により「筑紫地区文化財写真展」を実施した。			
【補足事項】 (九州国立博物館) ア 賛助会員(特別会員(個人)6人、維持会員(個人)25人、プレミアム会員(団体)1団体、特別会員(団体)2団体、維持会員(団体)19団体)			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域と連携した広報活動やイベントを実施し年度計画を達成した。今後も、広報の充実を図り、支援者増加を図る。	
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 賛助会制度や各会員制度の広報など、企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る取り組みを実施し、中期計画を順調に進めている。今後も活性化を図りたい。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-①-5) (皇居三の丸尚蔵館) ア			
担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 井手 真二
【実績・成果】 (皇居三の丸尚蔵館) ・ 寄附制度を整備し、寄附ポータルサイトへの掲出を行った。 ・ 館内に募金箱の設置を行った。また、寄附者への特典として無料観覧券及びオリジナルの絵葉書を作成し、当館への支援を推進した。 ・ 丸の内地区への都心型MICE誘致促進を目的とした組織であるDMO東京丸の内に加入し、丸の内エリアの企業やホテル、旅行会社等との連携を推進した。 ・ 関係者に向けた開館記念式典(10月30日)を実施した。 ・ また、各展覧会会期はじめに、報道内覧会及び関係者や近隣の美術館・博物館、大使館、ホテル、観光施設、報道関係者を招いた特別内覧会(11月2日、6年1月9日、6年3月11日)を実施し、当館の支援者の増加に向けた取り組みを実施した。内覧会では、会期毎の小冊子を作成し配布した。			
 文化財機構寄附ポータルサイト  館内の募金箱			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当初計画どおり寄附の制度設計を行うとともに、MICE事業を通じてインバウンドの誘致等を行う組織であるDMO東京丸の内に参加するなど、近隣の観光施設や宿泊施設と連携し、当館の支援者の輪を広げる活動を行った。	
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 8年度の全面開館に向けて本格的な会員制度の導入を図るべく、着実に企業や支援者との連携構築への取り組みを実施している。	

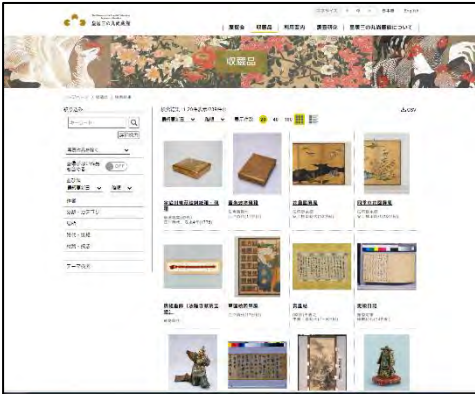
【書式A】		施設名		東京国立博物館		処理番号		1321A	
中項目		1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名		(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開							
【年度計画】		・ I-1-(3)-②-1) (4 館共通) ・ I-1-(3)-②-2) (東京国立博物館)ア、イ、ウ							
担当部課		学芸研究部博物館情報課				事業責任者		課長 村田良二	
【実績・成果】		1) (4 館共通) ・ 「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った(約 24,888 枚枚追加)。さらに、「作品種別」の整備を継続し、検索に利用できるようにした。あわせて、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品についても新規登録を進めた。 ・ 「e 国宝」において、既存解説文の見直しを継続して行った(解説文更新 110 件)。 2) (東京国立博物館) ア ・ 資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,694 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。 ・ 画像検索システムに画像データ 15,184 件を登録し、既存データ 2,309 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。 ・ 洋古書 11 冊(4,317 カット)のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。 ・ 新型コロナウイルス 5 類移行により、開館日時は従前に戻し、資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 3,373 人) ・ 貴重書用保存箱を 33 箱作成し、23 冊の補修を実施した。 ・ 1950 年以降の東京国立博物館のポスター560 種類を職員が利用しやすいように整理を行った。 イ ・ 東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。 ・ protoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・国立文化財機構内各機関発行雑誌に加えて収載範囲を広げ、一般図書含めて掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 100 件作成した。 ・ 国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができた。国立国会図書館からも 4 年連続で御礼状賞状を受領した。(一般公開 28 件、新規登録 122 件、被参照数 66,127 件) ・ 外部からの新規撮影依頼 6 件に対応して画像を提供し、展示や研究、出版に貢献した。 ・ 当館 3 件・他館 2 件の特別企画展示用に貴重書を貸与し、展示の充実に貢献した。 ウ ・ 主に館内の研究職員向けに閲覧室及び書庫の時間外利用サービスを開始した。 ・ ILL(図書館間相互利用)サービスによる文献複写サービスの受付(館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。 ・ 特別展開連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。 ・ 各種新型コロナウイルス対策は 5 類移行後、感染拡大につながらないように留意しつつ、速やかに各種制限を緩和・撤廃し、利便性の向上に努めた。 ・ 4 年度に続き Wikipedia の文化財記事を充実させるためのエディタソンに会場を提供し、列品に関する資料や画像の利用方法を紹介することにより、資料館の資料や情報の活用の仕方の普及および外部文化財情報の充実にも貢献した。 ・ 水谷長志編著『ミュージアム・ライブラリとミュージアム・アーカイブズ(博物館情報学シリーズ; 8)』(樹村房, 2023.4 刊行)に当館の館内 MLA(Museum-Library-Archives)連携を紹介するとともに、関連ワークショップに登壇し、他館の館内 MLA 連携構築の参考事例として貢献した。							
【補足事項】		2) (東京国立博物館) ア 新規受入図書 4,779 冊 既存図書の遡及入力 15 冊 逐次刊行物の新規受入 2,407 冊 逐次刊行物の遡及入力 2,493 冊 イ 当館開催展覧会カタログ 1,265 件 他館開催展覧会カタログ 6,590 件 当館刊行図書 7,349 件 当館・機構内他館刊行雑誌 89 件							
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス対策は感染症法上の5類移行以後、感染対策等を行いつつも速やかに規制を撤廃し、館内外における利便性の維持・向上を図った。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。また当館や他館の展示に貴重書を貸与し、洋古書のデジタル化を継続して行うなど一層の活用につながった。さらに当館の活動記録でもあるポスターやチラシ、無料観覧券などを整理して検索性を高めた。老朽化した建物のため、閲覧室や書庫の空調改善策や漏水対策など、保存環境向上および利用者のための利便性向上に努めた。館内の主に研究職員向けに開館時間外にも閲覧室と書庫を利用可能とする条件を整え、研究環境の向上に貢献した。							
【中期計画記載事項】 1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。		【判定根拠、課題と対応】 他館との図書交換・内外からの寄贈、研究員からの購入希望に応じて例年同様の蔵書の充実を図り、利用しやすく整理するとともに新着資料や特別展開連資料等に関する情報発信に努め、利便性を高めた。また利用と長期保存の観点から閲覧室および書庫環境の改善に努めた。レファレンス協同データベースへの登録や洋古書のデジタルライブラリー登録を進め、館内外の企画展示に貴重書を貸与したり、Wikipediaのエディタソンに協力したりして当館の資料や活用方法をより広く伝えることに努めた。以上より、順調に中期計画を進めることができたこと判断し、B評価とした。							
【中期計画に対する評価】 評価: B									

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通)、(京都国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-2) (京都国立博物館) ア			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子
【実績・成果】 I-1-(3)-②-1) (4館共通) ・「国立博物館収蔵品統合検索システム ColBase」に追加された項目「種別」に対応するため、当館の収蔵品管理システムにおいて、各作品に対して「種別」の情報を付与した。 ・e 国宝に掲載中の10年以上見直しが行われてこなかった各言語の作品解説について、確認、修正を行うことにより、国内外に向けた情報発信の強化を図った。 (京都国立博物館) ア ・館蔵品データベースにデジタル画像を2,227枚追加し、情報量の充実を図った。 ・収蔵品管理システムの改修(公開対象のデータを館蔵品データベースへアウトプットする機能など)の調整が3月に完了し、同月、4年度にリニューアルした館蔵品データベースを公開した。 イ オンラインによる画像利用申請受付開始に向けて、多言語対応の観点から、公式ウェブサイトの画像利用申請ページに英語ページを新たに設けた。 I-1-(3)-②-2) (京都国立博物館) ア 調査、研究、教育等に資するため、図書1,744冊、逐次刊行物1,043冊を新たに収集し、蔵書管理システムに登録した。			
【補足事項】 KNM Image Services Contact information for inquiries and applications concerning image use: gazou-staff_kyohaku++nich.go.jp (replace"+" with"@"). *The museum receives many inquiries at any given time, so please allow up to two weeks for a response. Thank you for your understanding. (画像利用申請ページ (英語))			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像を館蔵品データベースへ2,227枚追加し、作品情報を充実させた。また、システム自体は4年度にリニューアルしていた新館蔵品データベースを公開することができた。スマートフォンやタブレット端末の使用が一般化した現代社会に合わせ、見た目や機能面を改良しており、文化財に関する情報の発信と広報の強化を図った。以上の点から、B評定とした。	
【中期計画記載事項】 1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 館蔵品データベースの情報(テキストと画像)の充実化を図るとともに、情報発信の強化に努めた。 また、画像利用申請について、多言語対応の観点から、公式ウェブサイトに問い合わせ先などの基本情報を掲出する英語ページを新たに設けた。これにより多言語対応にかかる業務量を測定するとともに、他施設における同種の対応事例を調査し、今後更なる業務の改善を図っていく予定である。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通)、(奈良国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-2) (奈良国立博物館) ア			
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子
【実績・成果】 1) (4館共通) 収蔵品データベースにおいて収蔵品等の掲載情報充実につとめ積極的に公開した。 (奈良国立博物館) ア 仏教美術情報の公開・普及を図ることを目的に、撮影やフィルムのデジタル化などで作成した画像を10,181件、新たに写真情報システム・画像データベースへ登録し、公開した。 イ ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には、引き続き無償ダウンロードで対応した。 2) (奈良国立博物館) ア 図書情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、図書情報システムには1,380冊(和書1,337冊、漢籍21冊、洋書22冊)を新たに登録し、これらの資料と上記の画像データを仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。			
【補足事項】 仏教美術資料研究センターでは、2年8月以降、外部利用者による閲覧を完全予約制としている。従来はメールに予約票を添付することにより予約を受け付けていたが、ウェブサイトに関覧予約フォームを導入することにより利用者の利便性を向上させることが出来た。また、閲覧希望資料について連絡する欄を設けたことにより、担当者が利用者の情報要求を事前に把握し、閲覧・複写・レファレンスサービスを効果的に実施することが叶うとともに、業務の効率化にも繋がった。 資料室写真担当では、これまで年間おおよそ2,000カットの撮影を実施し、また既存の4×5フィルムのデジタル化を行い、仏教美術に関する情報資料の作成と蓄積、公開に努めてきた。しかしながら、業務量の増加に比して人員の補充がなされず、整理作業が完了していない画像が数多く残される状況が続いている。そこで業務フローと担当者、整理方法を大幅に見直すとともに刷新した。また、これまで紙媒体で部門担当者が記入していた「写真作成請求票」に代えて「写真撮影依頼フォーム」を導入して、部門担当者が撮影に先立って写真担当にデジタルデータで撮影内容を送付することとした。これらの結果、画像の整理作業が著しく進捗し、写真情報システムへ登録される文字データが16,851件(うち公開10,594)に増加した(前年比約4倍)。			
 写真撮影依頼フォーム（内部用）			
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 写真担当が管轄する画像の公開件数は、業務フローと担当者、整理方法などの見直しにより、例年比して大幅に増加させることができた。図書担当が管轄する図書情報システムへの登録件数は順調に増えているが、作業が追いつかず登録待ちとなっている図書もあり、6年度以降に体制を整えていきたい。	
【中期計画記載事項】 1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。			
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 文化財写真については、新規撮影・フィルムデジタル化画像とも、公開に向けて大きく進展させることができた。この点をA評価の根拠としている。図書資料については、以前のように助成金を得ることができず、研究資料の充実を十分に実現できているとは言い難いが、限られた予算の中で可能な収集に取り組んでおり、計画を着実に遂行できた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-1) (4館共通) 収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら検討する。 ・ (九州国立博物館) ア 収蔵品に関する基本情報や解説並びに展示予定の情報を掲載した収蔵品データベースを公開する。 イ 対馬宗家文書データベース対馬宗家文書データベースをリニューアル公開する。 ・ I-1-(3)-②-2) (九州国立博物館) ア 画像管理システムにおけるデータベースの充実に努め、内外の利用に供する。			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 野尻忠
【実績・成果】 I-1-(3)-②-1) (4館共通) ・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」に新収品を含むデータ96件を追加した。 ・「e国宝」に4年度新収品(重要文化財)のデータ2件を公開した。また、新撮した高精細画像を31点公開した(差し替えを含む)。 (九州国立博物館) ア 収蔵品ギャラリーに、新収品を含む96件の日本語データと418点の画像、英語・中国語データ285件を追加した。 公開中の2,448件の所蔵品について、3ヶ月先までの展示予定とあわせて文化財の情報を発信した。また、文化財の部分データを掲載する機能を収蔵品ギャラリーに実装し、より詳細な情報や画像を公開する環境を整えた。 イ 対馬宗家文書のデータベースをリニューアル公開した。元年度から3年度にかけて実施した棚卸しの成果を反映させ、17,971件のデータと46,590点の画像を公開した。 I-1-(3)-②-2) (九州国立博物館) ア ・画像管理システムに2,515点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データとを連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。 ・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約2,200点の画像を新規に追加した。活用可能な画像の一覧を公開することで、文化財画像の活用に係るサービスを向上した。 ・新規に図書535点、雑誌891点、図録・報告書1,822点、DVD10点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。また、利便性並びに管理効率向上のため、引き続き図書資料の再分類と装備修正を行った。			
【補足事項】  リニューアルした対馬宗家文書データベース			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーで画像を含む収蔵品データを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。また、4年度から進めていた対馬宗家文書データベースのリニューアルを完了した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。以上の成果から、年度計画を達成し、B評定とした。	
【中期計画記載事項】 1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。			

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開した。中期計画に基づきデータや画像の公開件数を継続して増やしている。 図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。以上の成果から、中期計画を円滑に推進し、B評定とした。
---------------------------------	---

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2) 資料の収集と公開		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-2) (皇居三の丸尚蔵館) ア			
担当部課	管理・情報課	事業責任者	管理・情報課長 五味 聖
【実績・成果】 展覧会情報に加え、これまで刊行した紀要についてもPDFファイルにてウェブサイトでの公開を順次進めた。 10月の移管以後、11月から5年度末までおよそ700カットの新規撮影によるデジタル画像を管理システムに登録し、ウェブサイトでの公開に備えた。 520枚のフィルムのデジタル化を進め、データを管理システムに登録した。			
 収蔵品検索システム			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 建替えにより新たに整備された皇居三の丸尚蔵館の写場を活用して、計画に沿って順調に撮影を進めている。	
【中期計画記載事項】 1) ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2) 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 撮影を計画的に進め、順次管理システムに登録し充実させる。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-1 (機構本部) ア、イ								
担当部課	本部事務局総務企画課				事業責任者	課長 渋沢志穂		
【実績・成果】 (機構本部) ア ・『独立行政法人国立文化財機構概要 令和5年度』（日本語版・英語版）を発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト（ https://www.nich.go.jp/ ）に掲載した。 ・『独立行政法人国立文化財機構年報 令和4年度』を6年3月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。 イ ・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。10月1日に宮内庁から移管を受けて新たに機構に設置した皇居三の丸尚蔵館について、展覧会情報等についても分かりやすくページ内に取り入れるとともに、機構内各施設の展覧会情報等、掲載情報を随時更新した。								
【補足事項】 ア ・『独立行政法人国立文化財機構概要 令和5年度』：日本語版1,400部、英語版300部発行 ・『独立行政法人国立文化財機構年報 令和4年度』：169部発行								
 独立行政法人 国立文化財機構 ホーム 国立文化財機構について 展覧会情報 お知らせ 寄附・会費制度 法人情報 情報公開 国立文化財機構の各施設 FACILITIES 国立博物館  東京国立博物館 → 日本と東洋の文化財を守り伝える中心拠点としての役割を担う我が国の総合的な博物館です。  京都国立博物館 → 平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財を取り扱う博物館です。  奈良国立博物館 → 仏教文化及び奈良を中心として守り伝えられてきた文化財を取り扱う博物館です。  九州国立博物館 → 「日本文化の形成をアジア的視野から捉える」をコンセプトにした博物館です。  皇居三の丸尚蔵館 → 皇宮から受け継いだ文化財を展示し、皇室と文化の繋がりをも広く紹介する博物館です。								
機構本部ウェブサイト上の各施設紹介								
【評価指数】	5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
ウェブサイトの アクセス件数	422,016	298,703	A		362,356	302,279	409,102	379,623
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画通りに機構の概要及び年報を発行するとともに機構本部ウェブサイトにも掲載した。また、新たに設置した皇居三の丸尚蔵館の情報の周知ができるようページ改築の準備等を進めることができた。ウェブサイトのアクセス件数も 422,016 件と目標値を大きく上回った。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期目標期間の3年目として計画通りの広報展開を行うことができている。今後も引き続き広報印刷物やウェブサイト等を通じて広く一般に情報提供を行っていく。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	① 教育・普及活動 ② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】			
・ I-1-(3)-②-3)-1 (5館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (5館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (5館共通) ア (東京国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸企画部広報室 総務部総務課	事業責任者	室長 鬼頭智美 課長 竹之内勝典
【実績・成果】			
I-1-(3)-②-3)-1 (5館共通) ア 当館ウェブサイトの年間スケジュールのページで年間の主な展覧会や展示作品を紹介した。5年度の年間スケジュールには、春夏秋冬(3か月)ごとに展示・イベントの予定を抽出表示できる機能を追加し、利便性の向上を図った。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』(年4回発行)を制作し、総合文化展広報に努めた。主な事業についてプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。周知に当たってはウェブサイト・公式SNSを重点的に活用し、最新の情報を速やかに案内したほか、適宜SNS広告を出稿し、幅広い訴求活動を実施した。SNS広告については動画を積極的に展開し、若年層へのアプローチを図った。 イ キッズデーなど家族連れや子ども向けイベントの際に、広報物等に公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を取り入れる等、親しみやすい博物館を訴求した。 I-1-(3)-②-3)-2 (5館共通) ア JR上野駅広告設備「J・ADビジョン」(デジタルサイネージ)、羽田空港等に広告出稿を継続した。 (東京国立博物館) ア 特別展等の報道発表会を4回、報道内覧会を7回実施した。またマスコミ向けの対談取材会を1回実施した。 イ 上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載、東京メトロ上野駅「文化の杜路」やJR上野駅構内へのポスター掲出等を継続して行った。 ウ 東洋館、法隆寺宝物館、黒田記念館等のアーカイブス動画(広報用貸出動画)の撮影を行った。また4年度に撮影した本館、平成館の動画についても媒体からの要請に応じて貸出を行った。 I-1-(3)-②-3)-3 (5館共通) ア ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。「名品ギャラリー」ページの改修を行い、アクセシビリティや多言語表示の改善、作品情報の更新の自動化を図ったほか、作品ごとに展示中であることが表示されるよう画面デザインの変更を行った。さらに展示開始を通知するwebプッシュ機能を追加した(6年4月実装予定)。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』を季刊(年4回)で各60,000部の制作、配布を実施した。 イ オンラインギャラリートーク等、動画コンテンツの配信を行ったほか、SNSの総合文化展紹介でも積極的に動画を取り入れた。 ウ SNSによる適時性のある情報発信を行った。ウェブサイトやSNS等のQRコード周知ポスターを新規に作成・館内に掲示し、アクセス件数や登録者数の向上を図った。また当館Instagramのプロフィール欄にリンクのまとめを実装し、情報取得への動線を整備した。Instagram投稿ガイドラインを策定し、画像・動画の撮影方法や選び方、投稿内容・テキストのカジュアル化を進め、展示や作品の魅力発信に努めた。メールマガジンを26回配信した。			
【補足事項】			
I-1-(3)-②-3)-1 (東京国立博物館) ア 4年度に制作した当館への来館誘致と共に施設の魅力を伝える広報用動画「来るたび発見!東京国立博物館」(30秒・15秒)の展開を進めた。上野駅ADビジョン(4/24～6/11)、羽田空港エアポートガーデンサイネージ(英語字幕付き)等で掲出したほか、SNS広告を出稿した。 I-1-(3)-②-3)-3 (東京国立博物館) ア 契約の切り替えに伴い6年度の博物館ニュース改定案を作成した。デジタル化の方針を受け、ページ数・印刷部数を減らし、展示・催し物や研究活動などの読み物を充実させるような構成案にするとともに、WEBでのHTML公開について検討した。 ウ X(旧Twitter):フォロワー163,888件(4年度144,129件)。Facebook:いいね!37,303件(4年度36,105件)。Instagram:フォロワー57,598件(4年度48,748件)。YouTubeチャンネル:登録者数35,261件(4年度23,741件)。			



動画「来るたび発見!東京国立博物館」



動画「来るたび発見!東京国立博物館」

【評価指数】	5年度実績	目標値	評 定	経 年 変 化	元	2	3	4
ウェブサイトの アクセス件数	10,377,906件	7,277,091件	A		8,235,810	7,021,923	11,382,143	10,569,749
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		SNS等で動画による発信に力を入れ、若年層へのアプローチを図った。また、貸出用の広報動画を制作し、より効果的・効率的に媒体からの撮影依頼等に対応できる体制を整えた。以上より、年度計画に沿って着実に事業を実施できた。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 150年事業での蓄積も踏まえながら、ウェブサイト、SNSを中心としたデジタル展開を推し進めた。また、プレスリリースによる発信等、従来からの手法も生かしつつ、幅広い世代へのアプローチを図った。以上、中期計画3年目として、順調に計画を進めることができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実		
【年度計画】 ・ I-1-(3)-②-3)-1 (5館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (5館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (5館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 企画室長 山川暁
【実績・成果】 3)-1 (5館共通) ア 年間スケジュールの配布(5年度分、4言語にてWEB公開)及び製作準備(6年度分、15,000部)を行った。 (京都国立博物館) ア 特集展示「新収品展」・「茶の湯の道具 茶碗」・「日中 書の名品」共通チラシや、「京博のお正月2024」チラシ、 特集展示「雛まつりと人形―古今雛の東西―」チラシ、特集展示「泉穴師神社の神像」リーフレット、特集展示 「雛まつりと人形―古今雛の東西―」リーフレットをはじめ、各種イベントのポスター、チラシの製作・配布を行 った。 イ 4年度発行の韓国語版に引き続き、5年度は「京都国立博物館ハンドブック」英語版を発行した。 ウ 公式キャラクター・PR大使「トラりん」を活用した広報活動を行った。 3)-2 (5館共通) ア ・親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝―」では、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と 連携し、紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。 ・特別展「東福寺」では、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と連携し、紙面広告やテレビス ポット広告等の広報を行った。 ・新春特集展示「辰づくし―干支を愛でる―」では、京都駅への交通広告掲出を行った。 ・特集展示「雛まつりと人形―古今雛の東西―」では、京都駅・京阪電車主要6駅への交通広告出稿だけでなく、初 めてInstagramとYahooにウェブ広告を掲出した。 (京都国立博物館) ア ・特別展・平常展示の記者発表会を6回、記者内覧会を5回実施した。記者発表会のうち1回は東京で実施した。 ・特別展・特集展示開催時に、近隣施設等へ展覧会チラシ・ポスターの配布等広報協力を依頼した。 イ 京都市「きもの姿おでかけ」、京都市観光協会「修学旅行パスポート」、京都商工会議所「京都検定合格者特典」 等の事業に協力することにより、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。 ウ 「京都市内4館連携協力協議会」で連携し、共通の展覧会パンフレットの制作、連携講座や相互割引、スタンプラ リー等を実施した。 3)-3 (4館共通) ア ウェブサイトのリニューアルを機に、4年度にユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。アクセス件数 は2,262,584件だった。 (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』(218～221号)、『Kyoto National Museum Newsletter』(157～160号)を発行し、ウェブ サイトに掲載した。 イ メールマガジン毎月1度の12回配信した(205号～216号)。 ウ 収蔵品貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」に70件公開した。 エ 当館公式X(旧Twitter)・YouTubeチャンネル、公式キャラクター「トラりん」のブログ・X(旧Twitter)・フェイ スブックを利用して継続した情報発信を行った。特に当館公式X(旧Twitter)は、X(旧Twitter)社ポリシーを遵 守し、かつ、当館に興味を持ち来館のきっかけとなるように、作品や教育コンテンツの紹介など投稿内容の充実を 図った。また5年度は、当館Instagramを開設し、さらなる情報発信の方法を模索し、トラりんもストーリーズに登 場する形で、当館SNSを通して、広報から展示を盛り上げた。 オ 障がい者や高齢者を含め誰もが情報や機能を支障なく利用できるよう、4年度のウェブアクセシビリティ検証内容 をもとに、ウェブサイト各ページの改修を進め、ウェブアクセシビリティ方針を策定し公開した。			

【補足事項】

3)-1

(京都国立博物館)

ア 「京博のお正月 2024」ポスター・チラシでは、新春特集展示「辰づくしー干支を愛でるー」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。

ウ 京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2023 にトラりんを出張させて、展覧会や当館の PR 活動を行った。また、館内での活動においては、週に 1 日～3 日、1 日 3 回、登場し、コロナ禍以前のように、来館者との触れ合い（ハグやハイタッチ等）ができるグリーティングを再開し、親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。



京まふ 2023 に登場するトラりん

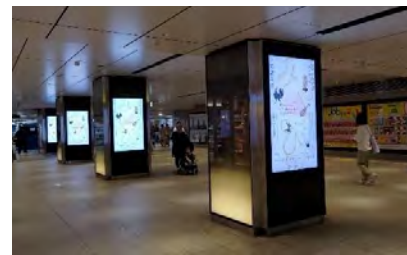
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評定	経年 変化	元	2	3	4
ウェブサイトのアクセス件数	2, 262, 584件	1, 661, 736件	A		4, 948, 829	3, 480, 100	3, 514, 043	1, 948, 061
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を効果的に行うことができ、特別展においては主催メディアや共催メディアと協力して多様な広報を実施することができた。また、SNS広報の強化、特集展示での初のウェブ広告への出稿を実施し、新たな広報展開を実施することができた。ウェブサイトについても、ウェブアクセシビリティの改修をおこなうなど工夫を重ね、アクセス件数（新たな解析システムに合うよう再設定）の目標値を達成した。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 展覧会に応じて多様な広報展開を実施することができたため、中期計画を順調に遂行できたといえる。6年度以降も引き続き、ウェブサイトをはじめとする各種広報媒体を活用し、積極的な広報活動を図る。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-②-3)-1 (5館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (5館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (5館共通) ア (奈良国立博物館) ア、イ、ウ								
担当部課	総務課 学芸部			事業責任者	課長 平石憲良 情報サービス室長 北澤菜月			
【実績・成果】								
1 (5館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布 (WEB公開を含む) を行った。 (奈良国立博物館) ア ・広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行った (『奈良国立博物館だより』、特別展・特別陳列のポスター・チラシ6回分)。 イ ・特別展の割引券を近隣の商店街等に配布した。 ・タレントの笑い飯・哲夫氏 (よしもとクリエイティブ・エージェンシー) を奈良博名誉サポーターとして任命し、出演するテレビやラジオ等で当館のPRを行った。 ・館のSNSで当館公式キャラクター「どんまいず」を積極的に活用し、館のPRと新たな客層の開拓を目指した。 ウ ブライダルの前撮り撮影場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。また、撮影場所についてのクレジット表記をクライアントに依頼することで、当館の認知度を向上させることに努めた。								
2 (5館共通) ア マスコミ媒体や公共機関等と連携した広報活動を展開した。 (奈良国立博物館) ア 奈良県中部の社寺が主催するスタンプラリーに参画し、地域回遊性を向上させた。 イ 展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに、原稿・画像提供依頼や誌面作成に積極的に協力した。 ウ ・国土交通省の後援するイベントへの関野ボールの貸し出し、奈良県が主催する大規模イベントへの西側敷地貸し出し、奈良市から情報提供のあったイベントでの仏教美術センター公開など、官公庁との連携・協力を推進した。 ・地元商店街と連携してチラシ掲示やポスター配布などの広報活動を展開した。 エ 近隣社寺等において展覧会チラシの配布等、広報協力を依頼した。								
3 (5館共通) ア ウェブサイトによる情報公開を行い、報道発表とあわせた迅速な情報提供につとめるなど、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指した。 (奈良国立博物館) ア 特別展・特別陳列・名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った (年4回)。 イ 名品展や特別展、イベント情報等をウェブサイト及びX (旧Twitter) に掲載し、来館者数増加に繋げた。公式キャラクター「どんまいず」を活用した情報発信を実施するとともに、「どんまいず」自体の認知度向上のためイラストコンテストやキャラクター人気投票参加などを実施し、加えて、「どんまいず」のぬいぐるみ等のグッズを展開することで、新たな来館者の獲得とフォロワー数の増加に努めた。 ウ 「奈良国立博物館だより」のPDF版をウェブサイトに掲載し公開した。								
【補足事項】 ・インバウンド需要の回復に対応し、特別展ページに詳しい解説を掲載するなど、ウェブサイトにおける英語・中国語・韓国語による情報の充実をはかった。								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
ウェブサイトのアクセス件数	1,374,092件	1,331,550件	B		1,704,901	1,082,864	1,236,917	1,129,746
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 情報発信の基盤となるウェブサイトを中心に、広報活動を滞りなく進めることができた。ウェブサイトの改修を重ね、運用上の改善をはかるとともに、アクセス件数の向上を図った。公式キャラクター「どんまいず」等を用いた情報発信を積極的に行うとともに、「どんまいず」のイラストコンテストの実施やグッズ展開により、当館のPRに繋げることができた。以上の実績によりB評価とした。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 積極的な広報活動を目指す中期計画に基づき、順調に事業を遂行できている。 4年度から引き続きタレントとの連携企画、奈良葛屋書店での図録販売、公式キャラクター「どんまいず」を用いた情報発信等の取り組みを継続し、商標使用契約を結んでミュージアムショップで「どんまいず」ぬいぐるみの販売を開始したことなど、積極的な広報活動を行っていることから、中期計画を順調に遂行できたと判断しB評価とした。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供、3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-②-3)-1 (5館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (5館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-3 (5館共通) ア、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ								
担当部課	学芸部企画課 広報課 総務課			事業責任者	課長 伊藤信二 課長 野田智子 課長 執行正一			
【実績・成果】								
3)-1 (5館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布 (WEB 公開を含む。)を行った。 (九州国立博物館) ア 特別展ごとにポスター、チラシ等を製作した。 イ アーティストのサラ・オレイン氏を応援大使に任命し、広報に協力いただいている。 ウ 展示リストのウェブデータベースの整備を継続した。 エ X (旧Twitter) で随時、展示中の文化財の見所を紹介した。また、文化財をよく見ていただくため、展示中の文化財を活かしたクイズラリーを実施し、子どもから大人まで幅広い年代の方にご参加いただいた。 オ 発祥600年を迎える福岡県の特産品「八女茶」を使用した、ご当地ノベルティを民間事業者と連携して製作し、文化交流展の新春特別公開に合わせて、来館者へ配布した。								
3)-2 (5館共通) ア 福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続した。 (九州国立博物館) ア 特別展ごとに、報道発表会と内覧会を実施し、マスコミへの情報提供を行った。 イ 太宰府観光協会と連携して、特別展や特集展示などの参道フラッグを設置し、太宰府天満宮への観光客に展覧会の告知を行った。 ウ 九州観光推進機構等のウェブサイトにおいて多言語で情報発信を行うほか、当館ウェブサイトやブログでも4言語 (日、英、中、韓) での情報発信を継続するとともに、新たにFacebookによる情報発信を行った。 エ 広報番組「太宰府・九博散歩道」において、太宰府地区の大学生や高校生をレポーターに起用し、若者の視点で文化財の魅力や太宰府の歴史の魅力を紹介した。								
3)-3 (5館共通) ア 展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、X (旧Twitter) にて駐車場空き情報を随時提供した。 (九州国立博物館) ア スマートフォンでの閲覧に適したレイアウトによるウェブサイトでの公開を引き続き行った。また、ウェブアクセシビリティにも積極的に対応し、利用者の利便性に配慮した情報発信に努めた。 イ 4言語 (日、英、中、韓) による情報提供を継続して行った。 ウ 「季刊情報誌アジアージュ」では、特別展や特集展示に加え、当館が所蔵するイチオシの文化財をわかりやすく紹介した。また、博物館ではたらく職員やその業務内容を「九博の舞台裏」として紹介した。 エ X (旧Twitter) では、専門的な内容もタイムリーに楽しめるよう、担当学芸員によるインパクトのある掲載案を募り、情報を発信した。また、新たにFacebookで4言語 (日、英、中、韓) による情報発信を行った。 オ 特別展、特集展ごとにYoutube動画を制作した。特別展「古代メキシコ」では、X (旧Twitter) で広く一般に質問を募集し、担当研究員が動画で回答する参加型の広報を行った。								
【補足事項】								
3)-3 (九州国立博物館) エ メールマガジンの配信：年24回 (メルマガ開封率41.1%)、Instagramのフォロワー数5,706人、X (旧Twitter) フォロワー数28,903人								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価	経年変	元	2	3	4
ウェブサイトのアクセス件数	1,726,318件	1,670,014件	B		2,047,955	824,819	977,605	1,430,301

				化				
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 InstagramやX（旧Twitter）などのSNSを活用した情報発信と、チラシや情報誌などの紙媒体での広報により、様々な年代にリーチできるよう広報に取り組んだ。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館につなげるための広報はもちろん、来館できない方にも楽しんでいただけるよう Youtube での展示解説や、若年層の興味を引くようなショート動画の配信など、積極的な情報発信を継続している。以上の実績から、中期計画を順調に遂行したと評価し、B 評価とした。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供、3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】								
・ I-1-(3)-②-3)-1 (5 館共通) ア、(皇居三の丸尚蔵館) ア、イ、ウ、エ ・ I-1-(3)-②-3)-2 (5 館共通) ア ・ I-1-(3)-②-3)-3 (5 館共通) ア、(皇居三の丸尚蔵館) ア、イ								
担当部課	総務課			事業責任者		総務課長 井手 真二		
(実績・成果)								
3)-1 (5 館共通)								
開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」の開館カレンダーをウェブサイトに掲出した。 (皇居三の丸尚蔵館)								
ア 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」、「令和の御代を迎えて」のチラシを製作・配布した。また、「皇室のみやび」第2期、第3期についても、展覧会全体とは別にチラシを製作・配布し、近隣博物館等の協力も得ながら広報の充実を図った。								
イ 館を総合的に紹介するリーフレットを5言語6種(日・英・中(簡・繁)・韓・仏)で制作した。								
ウ 館のウェブサイト宮内庁からの移管とともに公開した。また、展覧会の広報のための展覧会の特設サイト「皇室のみやび」及び「令和の御代を迎えて」を制作し、ウェブコンテンツを充実させた。								
エ 開館に合わせて、展覧会の理解促進のため「皇室のみやび」及び「令和の御代を迎えて」の展覧会図録を発行・販売した。また、「皇室のみやび」第 2 期展、第 3 期展では、全体の図録とは別に出品作品を紹介・解説する冊子を発行・販売した。加えて、第 2 期では展示の解説を補足する鑑賞ガイドを作成して配布した。外国人向けには、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用して、分かりやすく魅力的に作品を解説する国宝「春日権現験記絵」の英文リーフレットを作成し、配布した。また、出品目録も日・英の 2 言語で用意し配布を行った。								
3)-2 (5 館共通)								
・ 開館に係る報道発表会を開催した。また、開会記念展では第1期・第2期・第3期それぞれで報道内覧会を開催した。								
・ マスコミからの取材を広く受け入れ、新聞・テレビ・雑誌等の様々な媒体で積極的な広報を展開した。								
・ J R 東日本(丸の内地下連絡通路)及び東京メトロ(大手町駅コンコース)のデジタルサイネージにて展覧会のポスター等の情報を掲出した。また、主要な美術館が所在する都内各所の駅(竹橋駅、乃木坂駅、三越前駅、大手町駅、表参道駅、京橋駅、恵比寿駅等)などに重点的に交通広告を掲出した。								
・ 日本政府観光局(JNTO)と協力して、JNTOの外国人旅行者向け公式グローバルサイト「Travel Japan」における当館情報を開館後の内容に更新し、JNTOのFacebook「Visit Japan International」(フォロワー85万人)にも当館情報を新規投稿するとともに、JNTOのニューズレター(在日海外向けメディア、フォーリン・プレスセンター(FPCJ)、日本外国特派員協会(FCCJ))を通じ計約300強のメディアへ配信)で当館情報を英語で発信した。								
・ 主に欧米豪を中心とした英語圏ユーザー向け訪日観光情報サイト「Japan-guide.com」に当館情報を新規掲載した。また、訪日外国人向け観光情報を15か国語で提供する「Japan Travel」に、インバウンド向けツアーに関する記事掲載にあたり協力し、訪日外国人旅行者向けの広報・情報発信を積極的に展開した。								
・ 紡ぐプロジェクトに協力し、新聞紙上等での広報を行った。								
3)-3 (5 館共通)								
・ 移管に合わせて、当館のウェブサイト制作・公開した。アクセス件数 945,068件								
・ SNS (Instagram) を6年3月に開設し、主に若者をターゲットに広報を実施し、新規来館者層の開拓を行った。								
・ 館のリーフレット(英語)を成田空港第一ターミナルのビジターセンター及び京成スカイライナーの座席ポケットに配架し、誘客を図った。 (皇居三の丸尚蔵館)								
・ ウェブサイトは、日・英の2言語でミラー化し、海外への情報提供に努めた。また、中・韓ページについても作成・公開した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
ウェブサイトのアクセス件数	945,068件	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 10月1日の宮内庁より機構への移管から11月3日の開館まで1か月程度と限られた期間の中で、広報活動を積極的に充実させ、事前予約制のチケットが完売						



東京駅サイネージ掲出風景